

## 英語科目についての全般的説明

### 総合英語について（必修科目：1年次）

#### 1. 目的および目標

一年次の必修科目である総合英語の目的は、高校までに習得した英語の能力を4技能全てについて高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることである。

総合英語AⅠ/AⅡは英語圏における日常会話能力獲得を目指した授業である。この目標のため、全担当教員を英語母語話者としている。さらに、入学時のプレイスメント・テストによる能力別少人数クラス編成を行うことで、万全の態勢を整えている。

総合英語BⅠ/BⅡにおいては、読解力を中心とした学習する。目標は英語で発行された印刷物（新聞や定期刊行物）を理解する能力を獲得することである。

総合英語Cは、総合英語AⅠ/AⅡやBⅠ/BⅡにおける学習を量的また質的に深め、発展させることを目標としている。ある技能やジャンルについての技術的側面や知識教養的側面を鍛錬することもある。

#### 2. 科目の内容

総合英語AⅠ/AⅡ（会話と作文を中心に、4技能を総合的に学習する。）

総合英語BⅠ/BⅡ（読解を中心に、4技能を総合的に学習する。）

総合英語C（総合英語AⅠ/AⅡやBⅠ/BⅡを補完する科目。技能中心、あるいはジャンルに絞った授業を行うこともある。）

#### 3. 履修上の注意

総合英語は全て必修科目であり、演習形式で行われる。以下の点に注意されたい。

- 1) 出席率が3分の2以上ないと、受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第8条2）
- 2) 一年次に全て履修することを原則とする。未履修となった場合には、次年次に同一曜日、時間の同一教官による授業を再履修することを原則とする。（再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、一年次に単位修得することを強く勧める。）なお、教員によって再履修についての条件が異なる場合があるので、必ず事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず当該教員に相談すること。また、編入生が必修英語科目の単位を履修できない場合、即留年となるため、注意すること。
- 4) 総合英語AⅠ/AⅡについては、入学当初に行われるプレイスメント・テストを必ず受けること。また受けそこねたものは、必ず総合英語Aのコーディネーター（ラックストン教員）に相談すること。
- 5) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

### 上級英語について（選択科目：2年次以上）

#### 1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

#### 2. 科目の内容

これらはすべて目安であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目的シラバスを参照すること。

上級英語AⅠ/AⅡ（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語BⅠ/BⅡ（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語CⅠ/CⅡ（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語I/II（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

#### 3. 履修上の注意

1) 履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。

2) 演習形式のため、成績評価には出席や平常点を含む。定期試験のみの評価はしない。

3) 同一科目的複数履修は認めない。（上級英語AⅠを2度履修など）

4) 原則として上級英語の履修には、全ての総合英語科目の単位修得を条件とする。

5) 凤龍賞によるオールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。

6) TOEICスコアによる上級英語科目への単位振替を認定する。ただし、次の条件下とする。

1) 必修英語の単位をすべて修得していること。

2) 過去一年以内のスコア（Official Score Report）を「英語科目的教務担当教員」（人間科学事務室に問い合わせて確認してください）まで提出すること。

3) 最大で2単位までとする。また、基準と単位数については以下のように取り決める。600点以上→2単位認定。

4) 上記1)～3)の項目については、英語科目的担当教員が適宜見直す。

（註）大学院においても「英語M」、「英語D」、「総合技術英語」、「言語学特論」、「国際関係概論」、「批判的テキスト理解」を開講している。こちらを聽講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡すること。

**総合英語 A I**    Comprehensive English A I

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・電気工学科・物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Bruce Haendel, Mike Mackay, Chris O'Sullivan, Gareth Steele, Raymond Stubbe

**1. 概要**

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

**2. キーワード**

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

**3. 到達目標**

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

**4. 授業計画**

1. Placement test
2. Meeting new people, self-introductions.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Test

**5. 評価方法・基準**

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

**6. 履修上の注意事項**

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第8条2）Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a placement test at the beginning of the year.

必ず一年生の間この単位を取ってください！！

**7. 教科書・参考書**

- (1) Marc Helgesen, et al. : New English Firsthand (Lingual House)
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.
- (3) A monolingual (English - English) dictionary is strongly recommended.

**8. オフィスアワー等**

Wednesdays, 12-2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

**総合英語 B I**    Comprehensive English B I

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・電気工学科・物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 濑津子

**1. 概要**

英語の読解力を養うには、読む目的や文章内容に応じた効率的な読解方法を学ぶ必要がある。この授業では、大意把握、文章構造のパターン、要約など、英文読解のポイントを段階的に学習することによって、基礎的なリーディング・スキルを身に付ける。また、リスニングの練習も合わせて行なう。

**2. キーワード**

リーディング・スキル、リスニング

**3. 到達目標**

読む目的や文章内容に応じた効率的な読解方法を習得する。  
リスニング力を伸ばす。

**4. 授業計画**

1. イントロダクション
2. How To Be a "Good Reader", Approach to Reading
3. Finding The Main Idea, Exploring The Main Idea
4. Reading Faster, Understanding Organization
5. Recognizing Logical Writing, Finding Similarities And Differences
6. Stepping Up To Longer Passages, Summarizing Longer Passages
7. 中間試験
8. Finding It Fast
9. Searching For Information, Reading For Pleasure I
10. Reading Between The Lines, Reading As A Guessing Game,
11. Reading For Pleasure II, Getting The Rough Meaning
12. Reading For Pleasure III, Reading For Pleasure IV
13. The Gateway To Becoming An Independent Reader
14. まとめ
15. 期末試験

**5. 評価方法・基準**

原則として、中間試験25%、期末試験25%、活動参加50%とする。  
総合評価で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。  
授業への積極的な参加を必要とする。

**7. 教科書・参考書**

- Shinji Kimura, Yuko Shimizu. Independent Reader—Improving Essential Reading Skills.  
(マクミラン・ランゲージハウス)
- 行時潔/Daniel Droukis. Go Overseas! 英語で楽しむ海外旅行.  
(松柏社)

**8. オフィスアワー等**

火曜 5限

## 総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1年次 担当学科：建設社会工学科・電気工学科・物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

### 1. 概要

前期は、まず、国際的な共通言語となった英語についての認識を高めることからスタートする。不十分な修得のままである英語発音の再訓練をその後の一貫した柱とし、それに並行して、朝日英語年鑑の「国家、政治」を勉強し、社会各方面への関心を高め、英語力、語彙力を高める。

### 2. キーワード

国際英語、発音、国家、政治

### 3. 到達目標

英語マスメディアやIT英語情報を利用できる英語力獲得を目指し、高校までの基礎英語力をさらに向上させたい

### 4. 授業計画

1. 国際英語のすすめ I
2. 国際英語のすすめ II
3. 発音記号：母音の発音法 I
4. 発音記号：母音の発音法 II
5. 発音記号：子音の発音法（破裂音 I）
6. 発音記号：子音の発音法（破裂音 II）
7. 発音記号：子音の発音法（摩擦音 I）
8. 発音記号：子音の発音法（摩擦音 II）
9. 発音記号：子音の発音法（破擦音）
10. 発音記号：子音の発音法（鼻音、接音）
11. 連結発音 I
12. 連結発音 II
13. 朝日英語年鑑の整理（国家）
14. 朝日英語年鑑の整理（政治）
15. 試験

### 5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

### 7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（三修社）
2. 朝日新聞ジャパン・アルマニヤック2007（朝日新聞社）
3. 智恵蔵 2007（朝日新聞社）

### 8. オフィスアワー等

基本的には月曜2:30-4:00と水曜1:00-2:30。  
講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

## 総合英語 B I Comprehensive English B I

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・電気工学科・物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

### 1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英語の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

### 2. キーワード

環境問題、社会問題

### 3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

### 4. 授業計画

年間を通じて、reading, discussion や writing に 8割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2割程度の講義時間を作り当てる。

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad's Lack of Parenting
12. Dad's Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. 試験

### 5. 評価方法・基準

- (1) 試験 - 60%
  - (2) 授業での小テスト - 20%
  - (3) 授業での発表やレポート - 20%
- なお60点以上を合格とする

### 6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。  
英英辞書が英和辞書を携帯すること。  
模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。  
3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

### 7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long: Reflections on Social and Environmental Issues (SeiB I do)
2. Osamu Yamaguchi: Listening Pointer for the TOEIC Test (SeiB I do)

### 8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目（共通講座棟 3 階 S303）

**総合英語 B I**    Comprehensive English B I

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・電気工学科・  
物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修  
担当教員 虹林 廉

**1. 概要**

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。

**2. キーワード**

環境問題、国際性、異文化理解、科学、カルチャラル・リテラシー

**3. 到達目標**

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。また同時にリスニング能力については、基本的な技能を確認しながら、比較的短いものを繰り返し聞くことで、全般的能力の向上を目指す。大学生としてのレベルでは、このテキストを自分で読みこなすことができれば、必要充分である。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主学習においても道標となれば幸いである。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. A New Shade of Green by Walter Truett Anderson (1)
3. A New Shade of Green by Walter Truett Anderson (2)
4. Our Stolen Future by Thoeo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (1)
5. Our Stolen Future by Thoeo Colburn, Dianne Dumanoski and John Peterson Myers (2)
6. Review Test 1
7. Walden by Henry David Thoreau (1)
8. Walden by Henry David Thoreau (2)
9. Gulliver's Travels by Jonathan Swift (1)
10. Gulliver's Travels by Jonathan Swift (2)
11. Longevity and the Barren Aristocrat by Daniel E. L. Promislow (1)
12. Longevity and the Barren Aristocrat by Daniel E. L. Promislow (2)
13. The Selfish Gene by Richard Dawkins (1)
14. The Selfish Gene by Richard Dawkins (2)
15. Review Test 2

**5. 評価方法・基準**

定期試験70%、小テスト30%。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックは模範解答の掲示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。適時指示する。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは、評価したい。難解なテキストのため、充分な予習、復習を必須とする。

**7. 教科書・参考書**

教科書：SCOPE（研究社）

Welcome to the Listening World（金星堂）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

Seiko, Sharp, Casioの電子辞書（英語専用モデル）はお勧めできます。

**8. オフィスアワー等**

月曜日4限（14:30～14:00）  
(共通講座棟3階：S302)

**総合英語 B I**    Comprehensive English B I

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・  
電気工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修  
担当教員 八丁 由比

**1. 概要**

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考える。

本授業では、様々な種類の英語に触れ、それぞれの利用法、活用法を学ぶ。

**2. キーワード**

多種英語 異文化 時事問題

**3. 到達目標**

手段としての英語を発見し、自分の必要に応じて情報を獲得、楽しめるようになることを目指す。

**4. 授業計画**

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 歌詞の英語 I
3. 歌詞の英語 II
4. 歌詞の英語 III
5. 歌詞を書く
6. 歌詞を発表する
7. 新聞・雑誌の英語 I
8. 新聞・雑誌の英語 II
9. 新聞・雑誌の英語 III
10. 記事を書く
11. 記事を発表する
12. TV・映画の英語 I
13. TV・映画の英語 II
14. TV・映画の英語 III
15. 総評

**5. 評価方法・基準**

平常点(70%) 期末レポート(30%)

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

辞書を持参すること。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

**7. 教科書・参考書**

プリントを配布する。

辞書。

**8. オフィスアワー等**

木曜日 4時間目。

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可。

研究室： 共通教育研究棟S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

## 総合英語C Comprehensive English C

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野 瀬津子

### 1. 概要

英語でコミュニケーションを実践する際は、自分の意見を論理的に説明する能力と、それを効果的に伝える表現力が必要である。本授業では、スピーチの書き方、表現の仕方を段階的に学び、実際にスピーチを実践することで、論理的思考力とプレゼンテーション能力を養う。

### 2. キーワード

論理的思考力、プレゼンテーション、スピーチ

### 3. 到達目標

自分の意見を論理的に説明する方法を習得し、授業の最後には自分のスピーチを皆の前で発表する。

### 4. 授業計画

1. Introduction
2. Choose the topic
3. Kinds of Speech and presentation format / Think about the topic
4. The Body (Part 1) —Make the outline
5. The Body (Part 2) —Write the Body
6. The Body (Part 3) —Make it more interesting
7. Write the Introduction
8. Write the Conclusion
9. Practice and preparation make perfect!
10. Using your body / Using your voice
11. Presentation
12. Presentation
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

### 5. 評価方法・基準

活動参加50%、プレゼンテーション50%で評価する。

### 6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。  
授業への積極的な参加を必要とする。

### 7. 教科書・参考書

Paul Moritoshi, Basic Parts of Speech. (Thomson)

### 8. オフィスアワー等

火曜5限

## 総合英語C Comprehensive English C

担当学年：1年次 担当学科：建設社会工学科・物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田 忠男

### 1. 概要

高校までに不充分な修得のままである英語発音の再訓練を全体の一貫した柱とし、それに毎回並行して、多様な英語マスマディアや英語情報への関心を引き起こすことを目指す。ニュース・スタイルの英語を聞き取る方法についても後半では導入する。

### 2. キーワード

国際英語、発音、聞き取り法

### 3. 到達目標

英語マスマディアやIT英語情報を利用できる英語力獲得を目指し、高校までの基礎英語力をさらに向上させたい

### 4. 授業計画

1. 国際英語（1）
2. 国際英語（2）
3. 発音記号：母音の発音法 I
4. 発音記号：母音の発音法 II
5. 発音記号：子音の発音法（破裂音 I）
6. 発音記号：子音の発音法（破裂音 II）
7. 発音記号：子音の発音法（摩擦音 I）
8. 発音記号：子音の発音法（摩擦音 II）
9. 発音記号：子音の発音法（破擦音）
10. 発音記号：子音の発音法（鼻音、接音）
11. 連結発音 I
12. 連結発音 II
13. ニュース英語の聞き取り I
14. ニュース英語の聞き取り II
15. 試験

### 5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

### 7. 教科書・参考書

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（三修社）
2. 村田忠男、田端敏幸、Braven Smillie：「新版」カプセル・ニュース  
英語を聴く（三修社）

### 8. オフィスアワー等

基本的には月曜2：30-4：00と水曜1：00-2：30。  
講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、  
上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

[murata@dhs.kyutech.ac.jp](mailto:murata@dhs.kyutech.ac.jp)で、面接予約を事前にとることも可能。

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

**1. 概要**

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehensionの訓練も行う。

題材としては21世紀に成功した企業の秘訣や裏話を扱う。

**2. キーワード**

企業、経済、国際化

**3. 到達目標**

英語を通じビジネスや新製品や戦略に関しての知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

**4. 授業計画**

半期15回の講義の中、8割を reading に、残りの2割を listening comprehension に当てる。主要テキストで扱う内容は下記に示す。

1. オリエンテーション

2. Kewpie

3. Kewpie

4. Shimadzu

5. Shimadzu

6. Mitsuoka Motors

7. Wacoal

8. Yairi Guitar

9. KGS

10. Sanwa Shurui

11. Kao

12. Kyocera

13. Sanrio

14. Mos Food Services

15. 試験

**5. 評価方法・基準**

(1) 学期試験 - 60%

(2) 授業での小テスト - 20%

(3) 授業での発表やレポート - 20%

**6. 履修上の注意事項**

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

**7. 教科書・参考書**

1. Brenda Hayashi: Front-runners in the 21st Century (松柏社)

2. S. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (成美堂)

**8. オフィスアワー等**

木曜日 4時限目 (共通講座棟 3階 S303)

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

**1. 概要**

英語を学習する最も良い方法は、英語を用いて何かを学習することである。この授業では、工学との関連性もある、インダストリアル・デザインについての入門的知識を身に付けることで、総合的英語力アップを図る。また、より多角的に英語圏の文化を学習する目的で、英詩についても学習する。

**2. キーワード**

デザイン、文化、文学

**3. 到達目標**

1) 的確にかつ早く英文を読み、理解することができるようになる。

2) インダストリアル・デザインについて基礎的知識を身に付ける。

3) 日本語の詩とは全く異なる英詩を鑑賞できるようになる。

**4. 授業計画**

1. Introduction

2. Ford Model T

Coca-Cola Bottle

3. Juicy Salif Lemon Squeezer

Leica Camera

4. Harley-Davidson Motorbike

Le Corbusier Chairs

5. Arco Floor Lamp

Red/Blue Chair

6. Chrysler Building

Bird Kettle

7. Mackintosh Ladderback Chair

Chanel No.5

8. Review Test 1

9. Swatch Watch

Guggenheim Museum Bilbao

10. PH Lamp

Casa Batllo

11. Swiss Army Knife

La Cornuta Coffee Machine

12. McDonald's Fast Food Pack

Apple iMac

13. Review Test 2

14. Summary

**5. 評価方法・基準**

授業中の参加点と提出物を70%、試験を30%とする。総合評価で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

・成績評価のフィードバックは模範解答の掲示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。適時指示する。

・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは、評価したい。

**7. 教科書・参考書**

教科書：Design Makes the World Go Round (Thomson)

A Shorter Course in Easy English Poems (南雲堂)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

Seiko, Sharp, Casioの電子辞書（英語専用モデル）はお勧めできます

**8. オフィスアワー等**

月曜日 4限 (14:30-16:00)

(共通講座棟 3階 : S302)

## 総合英語 C Comprehensive English C

担当学年：1年次 担当学科：物質工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 八丁 由比

### 1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。

本授業では、英字新聞を材料にいくつかの英文の特徴を分析し、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の最後には、グループで各スタイルを取り入れた英字新聞を作成する。

### 2. キーワード

新聞 英文スタイル 作文

### 3. 到達目標

スタイルを踏まえた英文らしい英文を書けるようになることを目指す。

### 4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. リポート 特徴分析
3. リポート 特徴確認と執筆
4. リポート 発表と評価
5. リポート 校正
6. ブックレビュー 特徴分析
7. ブックレビュー 特徴確認と執筆
8. ブックレビュー 発表と評価
9. ブックレビュー 校正
10. オピニオン 特徴分析
11. オピニオン 特徴確認と執筆
12. オピニオン 発表と評価
13. 新聞作成
14. 新聞作成
15. 総評

### 5. 評価方法・基準

平常点（70%）新聞作成（30%）

60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

### 7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書。

### 8. オフィスアワー等

木曜日4時間目。

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可。

研究室：共通教育研究棟S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

## 総合英語 C Comprehensive English C

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 樋口 允子

### 1. 概要

Listening では実際に英語を使う場面を再現したビジネスニュースや、会話の聞き取り練習をし、Reading ではオフィスマネ、Web上の宣伝文やニュース記事などを読み取る力をつけ、総合的な英語能力の向上をはかる。

### 2. キーワード

日常生活、ビジネス、オフィスの英語

### 3. 到達目標

日常生活やビジネスの場で使われる英語に Listening, Reading 両面から取り組み、実社会で「使える英語力」を養うことを目指す。

### 4. 授業計画

1. オリエンテーション / Computers and Society (Part 1～Part 4)
2. Computers and Society (Part 5～Part 7)
3. Business Transaction (Part 1～Part 4)
4. Business Transaction (Part 5～Part 7)
5. At the Office (Part 1～Part 4)
6. At the Office (Part 5～Part 7)
7. Cars and Society (Part 1～Part 4)
8. Cars and Society (Part 5～Part 7)
9. Eating and Drinking (Part 1～Part 4)
10. Eating and Drinking (Part 5～Part 7)
11. Shopping (Part 1～Part 4)
12. Shopping (Part 5～Part 7)
13. Entertainment (Part 1～Part 4)
14. Entertainment (Part 5～Part 7)
15. 試験

### 5. 評価方法・基準

定期試験 70%

授業参加 (①授業での発表 ②提出物 ③小テスト) 30%

総合評価で60% 以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

全体出席数が3分の2以上ないと履修資格を失う。

### 7. 教科書・参考書

石井隆之他、Total Strategy for the TOEIC Test (成美堂)  
辞書

### 8. オフィスアワー等

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 定行 あし江

**1. 概要**

英語の四技能のうち、リーディングの運用能力を高めることを目標とする。レベルの高い英語を読破することによって、応用力を身につけることを可能にする。

また、リーディングとリスニングの能力の向上には相関関係があるので、レベルの高い英語を読破していくことは、リスニング能力の向上にもつながる。

**2. キーワード**

国際性、異文化理解、カルチュラル・リテラシー

**3. 到達目標**

大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。またリスニング能力については、時には映画を見ながら基本的な技能を確認し、能力の向上を目指す。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (1)
3. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (2)
4. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (3)
5. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (4)
6. Review 1 (映画 Hamlet)
7. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (5)
8. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (6)
9. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (7)
10. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (8)
11. Review 2 (映画 Richard III)
12. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (9)
13. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (10)
14. "Quoting and Alluding: Shakespeare in the English Language" (11)
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験80%、小テスト20%。積極的な発表などを考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

3分の2以上の出席が無いと、履修資格を失う。携帯電話の使用、禁止。

**7. 教科書・参考書**

教科書 : Shakespeare: Aspects of Influence (Harvard University Press)

**8. オフィスアワー等**

授業中に指示する

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：電気工学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 阿部 弘

**1. 概要**

アメリカやカナダで放送された ESL (English as a Second Language) 番組をベースとして作成されたビデオ教材をテキストとし、日本入学習者に有益な15のテーマを取り上げる。このテキストは、リスニングによるインプットからスピーキングによるアウトプットに効果的につながるように工夫してあるので、本授業の目的は、受講者が積極的に外国人と英語で日常のコミュニケーションができるようになるのを助けるとともに、異文化理解に関心を持ってもらうことにある。

また、時間が許せば、話題性のある英字新聞記事を紹介する。

**2. キーワード**

異文化理解、リスニング、スピーキング

**3. 到達目標**

日常生活において支障のない程度の英語でのコミュニケーション能力

**4. 授業計画**

1. Greetings
2. Asking for Directions
3. Requesting Information
4. Making Things Clear
5. Explaining What's Wrong
6. Going for a Job Interview
7. Making a Phone Call
8. Reporting Emergencies (1)
9. Reporting Emergencies (2)
10. Getting Invited to a Party
11. Making Complaints
12. Asking a Favor
13. Comparing Things
14. Giving Opinions (1)
15. Giving Opinions (2)

**5. 評価方法・基準**

定期試験70%。残りの30%は、出席率、授業中の取り組みなど。

**6. 履修上の注意事項**

- ・出席と授業に対する積極的な取り組みを重視する。
- ・外国人とコミュニケーションができる前に、日本人同士でのコミュニケーション能力に積極的であること。
- ・予習・復習に真面目に取り組むこと。

**7. 教科書・参考書**

Daily English (金星堂)

**8. オフィスアワー等**

非常勤講師につき特になし

## 上級英語 A I Advanced English A I

担当学年：2・3・4年次

担当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 Ian Ruxton

### 1. 概要

This course aims to introduce various sports, and to improve the communicative competence of students about sports and themselves in English.

### 2. キーワード

Sports, Speaking, Listening, Reading, Writing

### 3. 到達目標

a) To improve the English of students.

(Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).

b) To introduce and discuss various sports in English.

### 4. 授業計画

1. Self-introductions
2. Olympic Games
3. Soccer
4. Rugby
5. American Football
6. Field Hockey
7. Ice Hockey
8. My hometown
9. Tennis
10. Table Tennis
11. Volleyball
12. Fencing
13. Golf
14. Review
15. Test

### 5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is

also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
  - b) do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

### 6. 履修上の注意事項

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則 第8条2）

### 7. 教科書・参考書

教科書：Big Sports of the World, published by IkuBundo (郁文堂)

参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

### 8. オフィスアワー等

Mondays 3-4pm

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

## 上級英語 A I Advanced English A I

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 ロバート・ロング

### 1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech.

### 2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

### 3. 到達目標

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes). Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also aim to improve the students' fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

### 4. 授業計画

Week 1 : Crazy Fashions the Norm Paired Interviews  
(Responding to Opinions; making observations)

Week 2 : Marriage Under the Microscope Consultations  
(Summarizing; reacting; recommending)

Week 3 : Reviews and Quizzes (for chapters 1-2)

Week 4 : Wireless Japan Debates  
(Accepting, rejecting statements; mediating)

Week 5 : My Grandfather's Binbogami Group Work  
(Forming a consensus, sharing opinions)

Week 6 : Reviews and Quizzes (for chapters 3-4)

Week 7 : E-Commerce Surveying  
(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)

Week 8 : Rap and Hip-Hop Music Paired Interviews  
(Responding to Opinions; making observations)

Week 9 : Reviews and Quizzes (for chapters 5-6)

Week 10 : Children: A Different Breed Consultations  
(Summarizing; reacting; recommending)

Week 11 : Competitive Sports Debates  
(Accepting, rejecting statements; mediating)

Week 12 : Reviews and Quizzes (for chapters 7-8)

Week 13 : Women Managers Group Work  
(Forming a consensus, sharing opinions)

Week 14 : Social Activists Surveying  
(Soliciting, noting, Analyzing, Evaluating)

Week 15 : Reviews and Exam

### 5. 評価方法・基準

Weekly assignments count for 60% of the grade, quizzes count for 40%, with the exam counting an extra 10%.

### 6. 履修上の注意事項

Quizzes are graded in class, checked by other students, and feedback is given on errors afterwards before they are recorded. All work is evaluated by the teacher and recorded on a weekly basis. The evaluation of the chapter assignments is done on an effort basis.

### 7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Life and Culture through English,

Perceptia Press ISBN 1-4116-28039 Robert Long  
Culture Compass

Perceptia Press ISBN 1-4116-4484-0 Robert Long

### 8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00

Tuesday: 10:00 - 5:00

**上級英語 B I Advanced English B I**

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 大野 瀬津子

**1. 概要**

情報化が進む現代、批判的な思考力と、自分の意見を論理的に述べる能力は必須である。この授業では、英文の読み解きを通じて批判的思考力を鍛える。またディスカッションやプレゼンテーションを通じて、自分の意見を論理的に相手に伝える力を養う。

**2. キーワード**

批判的思考力、ディスカッション、プレゼンテーション

**3. 到達目標**

現代社会の諸問題について、批判的に考える姿勢を身に付ける。

英語の読み解き能力とプレゼンテーション能力を高める。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. Blood Types
3. Psychics
4. Feng Shui
5. Snake Oil
6. UFOs
7. Advertising
8. Reality TV
9. The Myth of the Noble Savage
10. Illness and the Mind
11. Risk
12. Presentation
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

**5. 評価方法・基準**

原則として、活動参加50%、プレゼンテーション50%とする。

総合評価で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

出席が3分の2以上ないと履修資格を失う。

ディスカッションやプレゼンテーションを実践するので、積極的な授業参加が必要となる。

受講希望者は、必ず第1回目と第2回目の授業に出席すること。

**7. 教科書・参考書**

Paul Stapleton, Fact, Fable, or Fiction. (マクミラン ランゲージハウス)

**8. オフィスアワー等**

火曜5限

**上級英語 B I Advanced English B I**

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 村田 忠男

**1. 概要**

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパに行こうという気になるよう仕向けてみたい

**2. キーワード**

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

**3. 到達目標**

1年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパを闊歩するための基礎訓練コースとしたい。当然、1年次の英語必修科目を終了した学生を対象とする。

**4. 授業計画**

1. ヨーロッパ文化とは
2. ヨーロッパのステレオタイプ
3. カルチャーショック
4. イタリアと日本
5. 君主制
6. 美の秘密
7. ファッション
8. 食文化
9. ワイン文化
10. ヨーロッパ製品
11. インターネット情報交換（1）
12. インターネット情報交換（2）
13. インターネット情報交換（3）
14. インターネット情報交換（4）
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから訪問してみたい学生の受講を薦める。英語で情報や意見の交換ができるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことが広い意味でのコミュニケーションを円滑にする。

**7. 教科書・参考書**

1. Joan McConnell, Appreciating European Culture (成美堂)

**8. オフィスアワー等**

基本的には月曜2:30-4:00と水曜1:00-2:30。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

[murata@dhs.kyutech.ac.jp](mailto:murata@dhs.kyutech.ac.jp)で、面接予約を事前にとることも可能。

**上級英語 B I Advanced English B I**

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 田吹 昌俊

**1. 概要**

コミュニケーションの手段としての口語英語能力を更に上達させる目的で講義を行う。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行う。

**2. キーワード**

時事問題、社会問題、科学問題

**3. 到達目標**

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーション出来るレベルにまで英語能力を上げる。

**4. 授業計画**

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 8 割程度、またその延長線上にある presentation に 2 割程度の時間を当てる。さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。また必要に応じ TOEIC の reading や listening 分野の対策も行う。

1. 社会ニュース
  2. 科学ニュース
  3. 経済ニュース
- などの時事問題を扱う。

**5. 評価方法・基準**

- (1) 学期試験 - 30%
  - (2) 授業でのディスカッション、プレゼンテーション、および 小テスト等 - 50%
  - (3) Presentation - 20%
- 合計で 60% 以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

最初の授業で説明する。

**7. 教科書・参考書**

Mini World 2007-2008 (Macmillan Languagehouse)

**8. オフィスアワー等**

木曜日 4 時限目（共通講座棟 3 階 S303）

**上級英語 B I Advanced English B I**

担当学年：2・3・4年次 当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 八丁 由比

**1. 概要**

本授業では、英語を読むという語学学習と、国際・国内問題の理解という 2 点に重点をおく。ニュース記事を材料とし、メディアに特徴的な英語を学びながら、国内外で何が起こっているのか、日本はいかにかかわっているのかなどについて考え、議論する。

英語の読解は教員、ディスカッションの議長は学生が担当する。授業の一部は英語で行う予定。

**2. キーワード**

国際・国内事情 日本外交 情報検索 情報発信

**3. 到達目標**

メディア英語に慣れ、社会問題について自分の意見を持つようになることを目指す。

**4. 授業計画**

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 英文読解と議論
3. 英文読解と議論
4. 英文読解と議論
5. 英文読解と議論
6. 英文読解と議論
7. 英文読解と議論
8. 英文読解と議論
9. 英文読解と議論
10. 英文読解と議論
11. 英文読解と議論
12. 英文読解と議論
13. 英文読解と議論
14. 英文読解と議論
15. 総評

**5. 評価方法・基準**

平常点 (70%) 期末レポート (30%)  
60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

履修を希望する場合は、必ず第一回目の授業に出席すること。  
英文サマリーや調査報告などのレポート提出を毎週義務付ける。

コツコツと英語力を伸ばしたい学生、およびディスカッション形式の授業に興味のある学生を歓迎する。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

**7. 教科書・参考書**

プリントを配布。  
辞書。

**8. オフィスアワー等**

木曜日 4 時間目。

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可。

研究室： 共通教育研究棟 S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

**上級英語 C I Advanced English C I**

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 虹林 慶

**1. 概要**

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

**2. キーワード**

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

**3. 到達目標**

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと自分の意見が示せることが出来るようになることが目標である。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的思考なども学ぶことをを目指す。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. Adventure
3. Crime
4. Culture Clash
5. Ecology
6. Freedom
7. Discussion 1
8. Globalisation
9. Horror
10. Language
11. London Life
12. Love
13. Discussion 2
14. Review Test

**5. 評価方法・基準**

定期試験60%、平常点40%。総合評価で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックは個別にオフィスアワーで行う。

**7. 教科書・参考書**

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)  
Kaleidoscope (郁文堂)

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

Seiko, Sharp, Casioの電子辞書（英語専用モデル）はお勧めで  
きます

**8. オフィスアワー等**

月曜日 4限 (14:30-16:00)

(共通講座棟 3階 : S302)

**技術英語 I Technical English I**

担当学年：3・4年次 担当学科：全学科

学期：前学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員

**1. 概要**

This course is aimed for second and third year university students. The purpose of this course is to develop students' grammatical accuracy, speaking and writing abilities. The textbooks allow students to explore only those issues (and vocabulary) in their own branch of engineering. Furthermore, a choice of speaking topics, for each week, allow students to practice presentation skills as well. There is also a weekly email (writing) assignment concerning engineering topics.

**2. キーワード**

technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, materials, general issues

**3. 到達目標**

Students are given two reviews and two exams, both of which count for 10 points. Students are expected to examine those topics in their area of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) and to write discussion questions, opinions, and provide more information; besides this weekly assignment, there are email and topics that students are expected to give mini-presentations on.

**4. 授業計画**

First Semester (April - August, 2007)	
Unit 1	Chemical/Network/Mechanical/Civil/Electrical
Chapter 1	Corrosion/Local Area Network/Fluid Mechanics/ Structural Analysis/Electrical Resistance
Chapter 2	Bonding/Peer-to-Peer Network/Mechatronics/ Seismic Engineering/Electrostatics
Chapter 3	Radiochemistry/ZigBee/Pneumatics/Dams/ Electric Networks
Chapter 4	Ceramics/Wireless Mesh Networks/Solar Energy/Bridges/Digital Circuits
Chapter 5	Acids/Ant Colony ACO/Automatic Systems/ Reservoirs/Transformers
Review/Exam	Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews Exams
Chapter 6	Absorption/Software Engineering/ Nanotechnology/Surveying/Telecommunications
Chapter 7	Analytical Chemistry/Computer Architecture/ Drafting/Fire Protection/Voltage
Chapter 8	Catalysis/Operating Systems/Piping/Geotechnical Engineering/Electronics
Chapter 9	Chemical Kinetics/Cryptography/Seals/Fittings/ Transport Engineering/Microelectronics
Chapter 10	Chemical Reactions/Artificial Intelligence/ Values/Environmental Engineering/Signal Processing
Review/Exam	Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews Exams

**5. 評価方法・基準**

Satisfactory attendance is required. Exams will count 20 points; Students can then opt to do (a) email assignments 48 points or (b) mini-presentations, which can count up to 48 points. Weekly assignments can count up to 32 points.

**6. 履修上の注意事項**

This is an elective course. The aim is to achieve a high level

of fluency in spoken and written English, which will help students in their future lives and careers. Students must be prepared to work hard in order to make real progress.

## 7. 教科書・参考書

First Semester: The Technical Matrix: Using Technical English I Perceptia Press

Second Semester: The Technical Matrix: Using Technical English II Perceptia Press

## 8. オフィスアワー等

Monday: 10:00 - 5:00 Tuesday: 10:00 - 5:00

(後学期)

## 総合英語 A II Comprehensive English A II

担当学年: 1 年次 担当学科: 機械知能工学科・建設社会工学科・電気工学科・物質工学科

学期: 後学期 単位数: 1 単位 必修・選択の別: 必修

担当教員 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson, Bruce Haendel, Mike Mackay, Chris O'Sullivan, Gareth Steele, Raymond Stubbe

### 1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

### 2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

### 3. 到達目標

- (e) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (f) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (g) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (h) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

### 4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Test

### 5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

### 6. 履修上の注意事項

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第 8 条 2）

必ず一年生の間この単位を取ってください！！

### 7. 教科書・参考書

- (1) Marc Helgesen, et al.: New English Firsthand (Lingual House)
- (2) Instructors may use other approved textbooks at their discretion.
- (3) A monolingual (English - English) dictionary is strongly recommended.

### 8. オフィスアワー等

Wednesdays, 12-2, 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

**総合英語 B II**    Comprehensive English B II

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・電気工学科・物質工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 大野瀬津子

**1. 概要**

媒体や文体の異なる多様な文章を読む。本授業を通じ、比較的長い英文でも、概要を把握出来るような応用力を養う。リスニングの練習も合わせて行なう。

**2. キーワード**

リーディング、リスニング

**3. 到達目標**

ある程度長さのある英文を最後まで読み通し、概要を把握できるようになる。

**4. 授業計画**

1. イントロダクション
2. Japanese Hit Cartoon Gets US Release
3. Alone at Sunset in a Land without Singles
4. A Day's wait (I)
5. A Day's wait (II)
6. Internet Addicts
7. The Wordy Woman and the Mute Man
8. 中間試験
9. Mysterious Circles Keep Cropping Up
10. From The Red Notebook (I)
11. From The Red Notebook (II)
12. The Cuddliest Hero in Asia
13. Look Back in Anger (I)
14. Look Back in Anger (II)
15. 期末試験

**5. 評価方法・基準**

原則として、中間試験25%、期末試験25%、活動参加50%とする。  
総合評価で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

- ・全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。
- ・授業への積極的な参加を必要とする。

**7. 教科書・参考書**

- ・Kazushi Kuzumi, Hiroaki Natsume 他. Multiple Voices from around the World. (朝日出版社)
- ・Masakazu Someya. Humorous Homestay Stories. (南雲堂)

**8. オフィスアワー等**

火曜5限

**総合英語 B II**    Comprehensive English B II

担当学年：1年次 担当学科：建設社会工学科・電気工学科・物質工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 村田忠男

**1. 概要**

前期での英語発音の再訓練後、後期は英語ニュースの聞き取り法を毎回、少しずつ訓練し、並行して朝日英語年鑑の「経済産業」に関連する分野の英語力、語彙力を高める。

**2. キーワード**

国際英語、聞き取り法、経済、産業

**3. 到達目標**

英語マスメディアやIT英語情報を利用できる英語力獲得を目指し、高校までの基礎英語力をさらに向上させたい

**4. 授業計画**

1. 放送英語の聞き取り法（冠詞）
2. 放送英語の聞き取り法（代名詞）
3. 放送英語の聞き取り法（前置詞）
4. 放送英語の聞き取り法（助動詞・接続詞）
5. 放送英語の聞き取り法（リズムによる短縮）
6. 放送英語の聞き取り法（母音弱化）
7. 放送英語の聞き取り法（リエゾン）
8. 放送英語の聞き取り法（語中のt）
9. 放送英語の聞き取り法（音声同化）
10. 朝日英語年鑑（経済1）
11. 朝日英語年鑑（経済2）
12. 朝日英語年鑑（産業1）
13. 朝日英語年鑑（産業2）
14. 朝日英語年鑑（産業3）
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

授業への積極的参加を50%、期末試験を50%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

毎回の予習は、必ず声を出して行うこと。新語の記憶は、口（発音）と手（綴）の両方で入力しておくことを薦める。特に不正確な発音記憶は、有害ですらある。

**7. 教科書・参考書**

1. 村田忠男、田端敏幸：「新版」カプセル英語発音（三修社）
2. 朝日新聞ジャパン・アルマニヤック2007（朝日新聞社）
3. 智恵蔵 2007（朝日新聞社）

**8. オフィスアワー等**

基本的には月曜2:30-4:00と水曜1:00-2:30。  
講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。  
murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

## 総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・電気工学科・物質工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

### 1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英語の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

### 2. キーワード

環境問題、社会問題

### 3. 到達目標

英語を通じ環境や社会問題に関する知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来る言語能力と知識を習得する。

### 4. 授業計画

年間を通じて、reading, discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy

2. Kazaa and Music Piracy

3. Are We Grown up Yet?

4. Are We Grown up Yet?

5. Systems is Washing Ph. D Brainpower

6. Systems is Washing Ph. D Brainpower

7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo

8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo

9. Key Ocean Fish Species Disappearing

10. Key Ocean Fish Species Disappearing

11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World

12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World

13. Crazy Spoiled Youth

14. Crazy Spoiled Youth

15. 試験

### 5. 評価方法・基準

(1) 試験 - 60%

(2) 授業での小テスト - 20%

(3) 授業での発表やレポート - 20%

なお60点以上を合格とする

### 6. 履修上の注意事項

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

### 7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long: Reflections on Social and Environmental Issues (SeiB I do)

2. Osamu Yamaguchi: Listening Pointer for the TOEIC Test (SeiB I do)

### 8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目 (共通講座棟 3 階 S303)

## 総合英語 B II Comprehensive English B II

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・電気工学科・物質工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 虹林 慶

### 1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業をしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。

### 2. キーワード

環境問題、国際性、異文化理解、科学、カルチャラル・リテラシー

### 3. 到達目標

本授業では、大学での英語教育という観点から、大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能なこと」と位置付け、難解なテキストに取り組んでいく。また同時にリスニング能力については、基本的な技能を確認しながら、比較的短いものを繰り返し聞くことで、全般的能力の向上を目指す。大学生としてのレベルでは、このテキストを自分で読みこなすことができれば、必要充分である。到達目標を具体的に示すことで、学生の自主学習においても道標となれば幸いである。

### 4. 授業計画

1. Introduction

2. My Fair Lady (1) by Alan Jay Lerner

3. My Fair Lady (2) by Alan Jay Lerner

4. But Is It Language? (1) by Roger Fouts and Stephen Tukel Mills

5. But Is It Language? (2) by Roger Fouts and Stephen Tukel Mills

6. Say What You Mean (1) by Martin Nuttall

7. Say What You Mean (2) by Martin Nuttall

8. Review Test 1

9. The Arrow of Time (1) by Stephen W. Hawking

10. The Arrow of Time (2) by Stephen W. Hawking

11. Ellipsis (1) by Alain de Botton

12. Ellipsis (2) by Alain de Botton

13. Speak, Memory (1) by Vladimir Nabokov

14. Speak, Memory (2) by Vladimir Nabokov

15. Review Test 2

### 5. 評価方法・基準

定期試験70%、小テスト30%。積極的な発表などの参加点を考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

・成績評価のフィードバックは模範解答の掲示、開示で行う。個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。適時指示する。

・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。逆に積極的な発表などは、評価したい。難解なテキストのため、充分な予習、復習を必須とする。

### 7. 教科書・参考書

教科書：SCOPE (研究社)

リスニング教材は適時指示する。

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

Seiko, Sharp, Casio の電子辞書（英語専用モデル）はお勧めできます。

### 8. オフィスアワー等

月曜日 4 限 (14:30~14:00)

(共通講座棟 3 階 : S302)

**総合英語 B II** Comprehensive English B II

担当学年：1年次 担当学科：機械知能工学科・建設社会工学科・電気工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修  
担当教員 八丁 由比

**1. 概要**

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法、活用法を学ぶ。

前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。

**2. キーワード**

多種英語 情報発信 運用能力

**3. 到達目標**

自分の言いたいことを人前で十分に伝えられるようになることを目指す。

**4. 授業計画**

1. デモンストレーション
2. 発表と評価
3. 発表と評価
4. 発表と評価
5. 発表と評価
6. 発表と評価
7. 発表と評価
8. 発表と評価
9. 発表と評価
10. 発表と評価
11. 発表と評価
12. 発表と評価
13. 発表と評価
14. 発表と評価
15. 総評

**5. 評価方法・基準**

平常点（70%）発表（30%）  
60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

**7. 教科書・参考書**

プリントを配布する。  
辞書。

**8. オフィスアワー等**

木曜日 4時間目。  
Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可。  
研究室：共通教育研究棟S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

**総合英語 C** Comprehensive English C

担当学年：1年次 担当学科：電気工学科

学期：後学期 単位数：1単位 修・選択の別：必修  
担当教員 大野 濑津子

**1. 概要**

英語でコミュニケーションを実践する際は、自分の意見を論理的に説明する能力と、それを効果的に伝える表現力が必要である。本授業では、スピーチの書き方、表現の仕方を段階的に学び、実際にスピーチを実践することで、論理的思考力とプレゼンテーション能力を養う。

**2. キーワード**

論理的思考力、プレゼンテーション、スピーチ

**3. 到達目標**

自分の意見を論理的に説明する方法を習得し、授業の最後には自分のスピーチを皆の前で発表する。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. Choose the topic
3. Kinds of Speech and presentation format / Think about the topic
4. The Body (Part 1) —Make the outline
5. The Body (Part 2) —Write the Body
6. The Body (Part 3) —Make it more interesting
7. Write the Introduction
8. Write the Conclusion
9. Practice and preparation make perfect!
10. Using your body / Using your voice
11. Presentation
12. Presentation
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

**5. 評価方法・基準**

活動参加50%、プレゼンテーション50%で評価する。

**6. 履修上の注意事項**

全体出席数が3分の2以上ないと、履修資格を失う。  
授業への積極的な参加を必要とする。

**7. 教科書・参考書**

Paul Moritoshi, Basic Parts of Speech. (Thomson)

**8. オフィスアワー等**

火曜5限

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：電気工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 田吹 昌俊

**1. 概要**

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehensionの訓練も行う。題材としては21世紀に成功した企業の秘訣や裏話を扱う。

**2. キーワード**

企業、経済、国際化

**3. 到達目標**

英語を通じビジネスや新製品や戦略に関しての知識を得ることにより、こうした問題を扱った時事英語を読んでも一応の理解が出来るレベルに到達する。

**4. 授業計画**

半期15回の講義の中、8割をreadingに、残りの2割をlistening comprehensionに当てる。主要テキストで扱う内容は下記に示す。

1. オリエンテーション
2. Kewpie
3. Kewpie
4. Shimadzu
5. Shimadzu
6. Mitsuoka Motors
7. Wacoal
8. Yairi Guitar
9. KGS
10. Sanwa Shurui
11. Kao
12. Kyocera
13. Sanrio
14. Mos Food Services
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

- (1) 学期試験 - 60%
- (2) 授業での小テスト - 20%
- (3) 授業での発表やレポート - 20%

**6. 履修上の注意事項**

授業への準備不足のために質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。

英英辞書か英和辞書を携帯すること。

模範解答の掲示及び解説については、オフィスアワー時に個別に行う。

3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

**7. 教科書・参考書**

1. Brenda Hayashi: Front-runners in the 21st Century (松柏社)
2. S. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (成美堂)

**8. オフィスアワー等**

木曜日 4時限目（共通講座棟3階S303）

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：電気工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 樋口 允子

**1. 概要**

Listening では実際に英語を使う場面を再現したビジネスニュースや、会話の聞き取り練習をし、Readingではオフィスマート、Web上の宣伝文やニュース記事などを読み取る力をつけ、総合的な英語能力の向上をはかる。

**2. キーワード**

日常生活、ビジネス、オフィスの英語

**3. 到達目標**

日常生活やビジネスの場で使われる英語にListening, Reading両面から取り組み、実社会で「使える英語力」を養うことを目指す。

**4. 授業計画**

1. オリエンテーション / Computers and Society (Part 1～Par 4)
2. Computers and Society (Part 5～Part 7)
3. Business Transaction (Part 1～Part 4)
4. Business Transaction (Part 5～Part 7)
5. At the Office (Part 1～Part 4)
6. At the Office (Part 5～Part 7)
7. Cars and Society (Part 1～Part 4)
8. Cars and Society (Part 5～Part 7)
9. Eating and Drinking (Part 1～Part 4)
10. Eating and Drinking (Part 5～Part 7)
11. Shopping (Part 1～Part 4)
12. Shopping (Part 5～Part 7)
13. Entertainment (Part 1～Part 4)
14. Entertainment (Part 5～Part 7)
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験 70%

授業参加 (①授業での発表 ②提出物 ③小テスト) 30%  
総合評価で60%以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

全体出席数が3分の2以上ないと履修資格を失う。

**7. 教科書・参考書**

石井隆之他、Total Strategy for the TOEIC Test (成美堂)  
辞書

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：電気工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 定行 あし江

**1. 概要**

英語の四技能のうち、リーディングの運用能力を高めることを目標とする。レベルの高い英語を読破することによって、応用力を身につけることを可能にする。また、リーディングとリスニングの能力の向上には相関関係があるので、レベルの高い英語を読破していくことは、リスニング能力の向上にもつながる。

**2. キーワード**

国際性、異文化理解、カルチュラル・リテラシー

**3. 到達目標**

大学生として必要な英語読解能力の習得を、「世界のトップレベルの文献を、自助努力をもって読破可能のこと」と位置づけ、難解なテキストを取り組んでいく。またリスニング能力については、時には映画を見ながら基本的な技能を確認し、能力の向上を目指す。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. "Shakespeare and the Early Dickens" (1)
3. "Shakespeare and the Early Dickens" (2)
4. "Shakespeare and the Early Dickens" (3)
5. "Shakespeare and the Early Dickens" (4)
6. Review 1: 映画
7. *Sketches by Boz* (1)
8. *Sketches by Boz* (2)
9. *Sketches by Boz* (3)
10. Review 2: 映画
11. *Pickwick Papers* (1)
12. *Pickwick Papers* (2)
13. *Pickwick Papers* (3)
14. *Pickwick Papers* (4)
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験80%、小テスト20%。積極的な発表などを考慮することもある。総合評価で60%以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。携帯電話の使用、禁止。

**7. 教科書・参考書**

教科書：*Shakespeare: Aspects of Influence* (Harvard University Press)

**8. オフィスアワー等**

授業中に指示する。

**総合英語 C Comprehensive English C**

担当学年：1年次 担当学科：電気工学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：必修

担当教員 阿部 弘

**1. 概要**

アメリカやカナダで放送された ESL (English as a Second Language) 番組をベースとして作成されたビデオ教材をテキストとし、日本入学習者に有益な15のテーマを取り上げる。このテキストは、リスニングによるインプットからスピーキングによるアウトプットに効果的につながるように工夫してあるので、本授業の目的は、受講者が積極的に外国人と英語で日常のコミュニケーションができるようになるのを助けるとともに、異文化理解に関心を持つてもらうことにある。

また、時間が許せば、話題性のある英字新聞記事を紹介する。

**2. キーワード**

異文化理解、リスニング、スピーキング

**3. 到達目標**

日常生活において支障のない程度の英語でのコミュニケーション能力

**4. 授業計画**

1. Greetings
2. Asking for Directions
3. Requesting Information
4. Making Things Clear
5. Explaining What's Wrong
6. Going for a Job Interview
7. Making a Phone Call
8. Reporting Emergencies (1)
9. Reporting Emergencies (2)
10. Getting Invited to a Party
11. Making Complaints
12. Asking a Favor
13. Comparing Things
14. Giving Opinions (1)
15. Giving Opinions (2)

**5. 評価方法・基準**

定期試験70%。残りの30%は、出席率、授業中の取り組みなど。

**6. 履修上の注意事項**

- ・出席と授業に対する積極的な取り組みを重視する。
- ・外国人とコミュニケーションができる前に、日本人同士でのコミュニケーション能力に積極的であること。
- ・予習・復習に真面目に取り組むこと。

**7. 教科書・参考書**

Daily English (金星堂)

**8. オフィスアワー等**

非常勤講師につき特になし

**上級英語 A II Advanced English A II**

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科  
学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
担当教員 Ian Ruxton

**1. 概要**

This course aims to introduce various sports, and to improve the communicative competence of students about sports and themselves in English.

**2. キーワード**

Sports, Speaking, Listening, Reading, Writing

**3. 到達目標**

- a) To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored) .
- b) To introduce and discuss the rules of various sports in English.

**4. 授業計画**

1. My family
2. Baseball
3. Basketball
4. Boating
5. Track and Field
6. Ice Skating
7. Bowling
8. Boxing
9. Sailing
10. Judo
11. My hobbies
12. My vacation plans
13. Newspapers
14. Review
15. Test

**5. 評価方法・基準**

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする

**6. 履修上の注意事項**

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則 第8条2）

**7. 教科書・参考書**

教科書：Big Sports of the World, published by IkuBundo (郁文堂)

参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

**8. オフィスアワー等**

Mondays 3-4pm

ruxtion@dhs.kyutech.ac.jp

**上級英語 A II Advanced English A II**

担当学年：1年次 担当学科：全学科  
学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
担当教員 ロバート・ロング

**1. 概要**

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech.

**2. キーワード**

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

**3. 到達目標**

Students are graded on their effort in completing weekly assignments and on their accuracy (weekly quizzes) . Students should make progress in being able to coherently take a position on a social issue, and to make a written and oral statement concerning it. Reviews also aim to improve the student's fluency. Thus, by the completion of the course, students should be at the higher intermediate level.

**4. 授業計画**

- |         |  |                 |
|---------|--|-----------------|
| Theme   | Conversational Topics                                | Interaction     |
| Week 1  | Family/Discussing and Comparing Families             | /Pair work      |
|         | Grammar: Asking Questions                            |                 |
| Week 2  | Expertise/Surveying skills and abilities             | /Survey Speech  |
|         | Grammar: Conditionals                                |                 |
| Week 3  | Discipline/Commenting on problems /Solutions         | Group Reactions |
|         | Grammar: Too vs. Enough                              |                 |
| Week 4  | Beautification/Your appearances: changes, desires/   | Pair work       |
|         | Grammar: Comparisons with Adjectives                 |                 |
| Week 5  | Entertainment/Discussions based on free time, trends | Survey/Speech   |
|         | Grammar: Modals of Possibility                       |                 |
| Week 6  | Power/Comments on power relationships/Group          | Reactions       |
|         | Grammar: Relative Clauses                            |                 |
| Week 7  | Education/Your future Career, the issue of tutoring/ | Pair work       |
|         | Grammar: Present Perfect                             |                 |
| Week 8  | Environment/Global Warming, Wild Fires, Storms/      | Survey /Speech  |
|         | Grammar: Comparative Expressions                     |                 |
| Week 9  | Dependence/Staying at home, community/ Group         | Reactions       |
|         | Grammar: The Compound Personal Pronoun               |                 |
| Week 10 | Obligation/Your parents: Taking care of them/Pair    | work            |
|         | Grammar: Present Continuous                          |                 |
| Week 11 | Sports/Blood sports: sport or torture/Survey /       | Speech          |
|         | Grammar: Future Time Clauses                         |                 |
| Week 12 | Individualism/Peer Pressure and individualism/       | Group Reactions |
|         | Participial Adjectives                               |                 |

Week13 Reviews

Week14 Review /Exam

**5. 評価方法・基準**

Weekly assignments count for 60% of the grade, quizzes count for 40%, with the exam counting an extra 10%.

**6. 履修上の注意事項**

Quizzes are graded in class, checked by other students, and feedback is given on errors afterwards before they are recorded. All work is evaluated by the teacher and recorded on a weekly basis. The evaluation of the chapter assignments is done on an effort basis.

**7. 教科書・参考書**

Crossing Over: Exploring Japanese Life and Culture through English.

Perceptia Press ISBN 1-4116-28039 Robert Long  
Culture Compass

Perceptia Press SBN 1-4116-4484-0 Robert Long

**8. オフィスアワー等**

Monday: 10:00 - 5:00

Tuesday: 10:00 - 5:00

**上級英語B II Advanced English B II**

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 大野 瀬津子

**1. 概要**

本授業は、海外旅行に興味のある学生に向けたものである。受講者は、実際に海外旅行をするという仮定の下に、自分の興味のある国について情報収集し、旅行の計画を立て、その成果をプレゼンテーションの形で発表する。

**2. キーワード**

海外旅行、情報収集、プレゼンテーション

**3. 到達目標**

情報収集能力、プレゼンテーション能力を高めるとともに、外國についての知識を深める。この授業を利用して、ぜひ海外旅行を実践して欲しい。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. Getting Ready
3. Choosing Country
4. About Your Country
5. The Arts
6. Wildlife
7. Information for Visitors
8. Getting There
9. Exploring the Country's Regions
10. Traveling Around the Country
11. Planning Your Final Itinerary
12. Presentation
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

**5. 評価方法・基準**

原則として、活動参加50%、プレゼンテーション50%とする。  
総合評価で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

- ・出席が3分の2以上ないと履修資格を失う。
- ・海外旅行に興味のある学生を歓迎する。
- ・毎週リサーチや英作を課すので、積極的な授業参加が必要となる。
- ・受講希望者は、必ず第1回目と第2回目の授業に出席すること。

**7. 教科書・参考書**

Richard McMahon, Travel Abroad Project. (南雲堂)

**8. オフィスアワー等**

火曜5限

## 上級英語 B II Advanced English B II

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 村田 忠男

### 1. 概要

一貫して、国際体験の実現を目指し、国際感覚の向上をはかる。豊かな伝統を保ちながらも変動を続けるヨーロッパ（文化）に関する英文エッセイを材料にしつつ、英語による要約や表現力の向上を目指す。教科書は一冊指定するが、追加資料は、こちらで用意する。また、インターネットを利用してヨーロッパ情報を取得し、クラスで情報交換を実施する。受講後は、ヨーロッパに行こうという気になるよう仕向けていきたい。

### 2. キーワード

ヨーロッパ文化、インターネット、情報交換

### 3. 到達目標

1年次までに身につけた英語力をさらに向上させる。一人でヨーロッパを閲覧するための基礎訓練コースとしたい。当然、1年次の英語必修科目を終了した学生を対象とする。

### 4. 授業計画

1. ヨーロッパの女性
2. ヨーロッパの家族
3. ヨーロッパの福祉
4. クリスマス
5. 迷信
6. 個性
7. ヨーロッパの教育
8. 特別行事
9. 新しいヨーロッパ
10. 伝統と新方向
11. ヨーロッパ情報交換（1）
12. ヨーロッパ情報交換（2）
13. ヨーロッパ情報交換（3）
14. ヨーロッパ情報交換（4）
15. 試験

### 5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

ヨーロッパ文化に関心をもつ学生、これから訪問してみたい学生の受講を薦める。英語で意見の交換ができるよう、援助したい。関心のあるトピックを用意しておくことがコミュニケーションを円滑にする。

### 7. 教科書・参考書

1. Joan McConnell, Appreciating European Culture (成美堂)

### 8. オフィスアワー等

基本的には月曜2:30-4:00と水曜1:00-2:30。

講義時間の前後に訪問希望者はアポイントメントを取ると、上記以外に双方の都合のいい時間を設定できる。

murata@dhs.kyutech.ac.jpで、面接予約を事前にとることも可能。

## 上級英語 B II Advanced English B II

担当学年：1年次 担当学科：全学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員 田吹 昌俊

### 1. 概要

コミュニケーションの手段としての口語英語能力を更に上達させる目的で講義を行う。ここでは特に様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行う。

### 2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

### 3. 到達目標

英語を媒体として様々な時事問題を読み、ディスカッションすることにより個別のテーマについて熟知し、最終的にはプレゼンテーション出来るレベルにまで英語能力を上げる。

### 4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 8割程度、またその延長線上にある presentation に 2割程度の時間を当てる。さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。また必要に応じ TOEIC の reading や listening 分野の対策も行う。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

### 5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験 - 30%
- (2) 授業でのディスカッション、プレゼンテーション、および小テスト等 - 50%
- (3) Presentation - 20%

合計で60%以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

最初の授業で説明する。

### 7. 教科書・参考書

Mini World 2007-2008 (Macmillan Languagehouse)

### 8. オフィスアワー等

木曜日 4 時限目（共通講座棟 3 階 S303）

**上級英語 B II**    Comprehensive English B II

担当学年：2・3・4年次 担当学科：全学科  
 学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 八丁 由比

**1. 概要**

本授業では、英語を読むという語学学習と、国際・国内問題の理解という2点に重点をおく。ニュース記事を材料とし、メディアに特徴的な英語を学びながら、国内外で何が起こっているのか、日本はいかにかかわっているのかなどについて考え、議論する。

英語の読解は教員、ディスカッションの議長は学生が担当する。

授業の一部は英語で行う予定。

**2. キーワード**

国際・国内事情 日本外交 情報検索 情報発信

**3. 到達目標**

メディア英語に慣れ、社会問題について自分の意見を持てるようになることを目指す。

**4. 授業計画**

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 英文読解と議論
3. 英文読解と議論
4. 英文読解と議論
5. 英文読解と議論
6. 英文読解と議論
7. 英文読解と議論
8. 英文読解と議論
9. 英文読解と議論
10. 英文読解と議論
11. 英文読解と議論
12. 英文読解と議論
13. 英文読解と議論
14. 英文読解と議論
15. 総評

**5. 評価方法・基準**

平常点（70%）期末レポート（30%）

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

履修を希望する場合は、必ず第一回目の授業に出席すること。

英文サマリーや調査報告などのレポート提出を毎週義務付ける。

コツコツと英語力を伸ばしたい学生、およびディスカッション形式の授業に興味のある学生を歓迎する。

三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。

成績が「不合格」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

**7. 教科書・参考書**

プリントを配布。  
 辞書。

**8. オフィスアワー等**

木曜日4時間目。

Eメールで面接予約を取れば、上記時間以外も可。

研究室：共通教育研究棟S412 (hatcho@dhs.kyutech.ac.jp)

**上級英語 C II**    Advanced English C II

担当学年：3、4年次 担当学科：全学科  
 学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択  
 担当教員 虹林 慶

**1. 概要**

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

**2. キーワード**

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

**3. 到達目標**

海外留学などを想定して、そのような状況下においてもきちんと自分の意見が示せることが出来るようになることが目標である。単に英語学習にとどまらず、それに必然的に結びつく批判的思考なども学ぶことを目指す。

**4. 授業計画**

1. Introduction
2. Money
3. Pet or Product?
4. Poverty
5. Discussion 1
6. Relationships
7. School
8. Stereotypes
9. Discussion 2
10. Success
11. Travel
12. Vanity
13. Discussion 3
14. Review Test

**5. 評価方法・基準**

定期試験60%、平常点40%。総合評価で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックは個別にオフィスアワーで行う。

**7. 教科書・参考書**

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)  
 A Young Person's Guide to Philosophy (Macmillan)  
 参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）  
 Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)  
 Seiko, Sharp, Casioの電子辞書（英語専用モデル）はお勧めできます

**8. オフィスアワー等**

月曜日4限（14:30-16:00）  
 （共通講座棟3階：S302）

**技術英語 II      Technical English II**

担当学年：3、4年次 担当学科：全学科

学期：後学期 単位数：1単位 必修・選択の別：選択

担当教員

**1. 概要**

This course is aimed for second and third year university students. The purpose of this course is to develop students' grammatical accuracy, speaking and writing abilities. The textbooks allow students to explore only those issues (and vocabulary) in their own branch of engineering. Furthermore, a choice of speaking topics, for each week, allow students to practice presentation skills as well. There is also a weekly email (writing) assignment concerning engineering topics.

**2. キーワード**

technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, materials, general issues

**3. 到達目標**

Students are given two reviews and two exams, both of which count for 10 points. Students are expected to examine those topics in their area of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) and to write discussion questions, opinions, and provide more information; besides this weekly assignment, there are email and topics that students are expected to give mini-presentations on.

**4. 授業計画**

Second Semester (October-February, 2007 - 2008)

Unit 1 /Chemical/Network/Mechanical/Civil/Electrical

Chapter 1 Plastics/Computer Vision/Lasers Pollution Controls/  
Electromagnetics

Chapter 2 Metals/Machine Learning/Electrical Motor/  
Ventilation/Transistor

Chapter 3 Heat Transfer/Bioinformatics/Waste Recycling/  
Sewage Water Systems/Transmission Lines

Chapter 4 Polymers/Computational Neuroscience/Washing  
Machines/Remediation/Feedback

Chapter 5 Crystallization/Reverse Engineering/Maglev  
Trains/Hazardous Waste Management/Programmable Logic  
Controller

Review/Exam    Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews  
Exams/Reviews Exams/Reviews Exams

Chapter 6 Thermodynamics/Programming Paradigm/  
Aerospace Engineering/Industrial Ecology/Diodes

Chapter 7 Microfluidics/Automated Reasoning/Power  
Generation/Soil Erosion/Ionising Radiation

Chapter 8 Distillation/Robotics: Navigation/Nuclear Engineering/  
Water Erosion/TRIAC

Chapter 9 Chemical Reactors/MEMS Systems/Wind Power/  
Gravity Erosion/Thermionic Emission

Chapter 10 Biomedical Engineering/Computer Algebra  
Systems/Kinematics/Shoreline Erosion/High Definition  
Television

Review/Exam    Reviews Exams/Reviews Exams/Reviews  
Exams/Reviews Exams/Reviews Exams

**5. 評価方法・基準**

Satisfactory attendance is required. Exams will count 20 points; Students can then opt to do (a) email assignments 48 points or (b) mini-presentations, which can count up to 48 points. Weekly assignments can count up to 32 points.

**6. 履修上の注意事項**

This is an elective course. The aim is to achieve a high level of fluency in spoken and written English, which will help students in their future lives and careers. Students must be prepared to work hard in order to make real progress.

**7. 教科書・参考書**

First Semester: The Technical Matrix: Using Technical English I Perceptia Press

Second Semester: The Technical Matrix: Using Technical English II Perceptia Press

**8. オフィスアワー等**

Monday: 10:00 - 5:00

Tuesday: 10:00 - 5:00

## 【外国語を学ぶ意義】

### 1. 言葉の役割

人間は、言葉を用いて考える。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

### 2. 母（国）語と外国語

人間の思考は、その人間が習得している母（国）語の思考形式に強く影響される。言葉は文化の形式を規定する、と言える。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の文化的思考の枠組みを広げることに寄与する。

### 3. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、ともすれば英語のみを学習すれば事足りるようと考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足れりと考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は、英語文化圏のみならず、ヨーロッパ文化圏・イスラム文化圏・アジア文化圏など、多種多様の文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ることは、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

## 初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目（各1単位）がドイツ語又は中国語での選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語AⅠ」（前学期）、「基礎ドイツ語AⅡ」（後学期）、「基礎ドイツ語B」（前学期又は後学期）が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語AⅠ」（前学期）、「基礎中国語AⅡ」（後学期）、「基礎中国語B」（後学期）が必修となる。

4月に「基礎ドイツ語AⅠ」又は「基礎中国語AⅠ」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更出来ない。

中国語の履修を希望する学生は、第一回目の「基礎中国語AⅠ」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後学期も同じ教員の担当する「基礎中国語AⅡ」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を必修科目として履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

なお、上記は初修外国語の選択必修科目についてのものであり、選択科目については各自自由に選択することが出来る。

## 【ドイツ語を学ぶ意義】

### (1) 現代社会の基礎創成を担った言語であること

九工大的学生たちは、17世紀ごろから始まった西欧近代合理主義にその源を持つ西欧近代科学技術を学んでいる。この西欧近代合理主義があるときは育み、あるときは敵対することでその発展に寄与してきたのは、主としてイギリス・ドイツ・フランス、後にはアメリカなどを含む西欧近代国家である。つまり、ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を直接支えてきた言語のひとつである。

### (2) 言語としての学習の容易さ

言語は文法から出発して個別の場合に適用して理解できる部分と、語法として覚えてしまわなければならない部分とを持ち合わせているが、ドイツ語学習の初期段階においては、文法で解釈できる部分が多い。公理や定理から出発して個別の場合に敷衍的に適用していく手法は理科系科目的各分野において現れるもので、九工大的学生にとっては受け入れやすいものである。

### (3) ドイツ及びドイツ語圏諸国への魅力

#### (ア) 多元的社会の創造

ドイツは国家成立の経緯から連邦制を取っている。また、現在のドイツは東欧圏や南欧圏、さらにはトルコを含む周辺の諸国から多くの移民を受け入れている。連邦制による地方分権も進んでおり、国家として多元的社会を実現している。

EUは国家の連合体であり、その成り立ちからして多元的社会を目指している。ドイツはEUの中心的な役割を担っており、多元的社会の創造に寄与している。

#### (イ) 環境先進国としてのドイツ

また、全世界的な関心を集めている環境問題に関しても、森林枯死などの問題を通じて、技術的にも制度的にも世界の最先端を進んでいる。

#### (ウ) 学術的・文化的影響

ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を担ってきたので、自然科学上の重要な論文には、ドイツ語で書かれたものも数多くある。ドイツ語を学ぶことは、そうした自然科学や、その他の学術的・文化的魅力に直接触れるきっかけも提供してくれるだろう。

#### (エ) ドイツ語圏諸国

ドイツ語は、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として使われている。モーツアルトやシューベルトが生まれ、ベートーベンやブラームスが半生を過ごしたオーストリアは、「音楽の国」として世界に並ぶものがない。オーストリアはまた、フロイトやアードラーを生んだ心理学の国としても知られるし、ハプスブルク時代から続くその多様な文化には、ヨーロッパ文化の縮図を見ることが出来る。政治的にはオーストリアもスイスも永世中立国であり、13世紀まで遡ることのできるスイスの連邦制は今も世界のお手本となっている。4つの言語が話されるスイスは、作家トマス・マンが「ヨーロッパの中のヨーロッパ」と呼んだことでも分かる通り、多文化社会の先進国といえる。

**【ドイツ語学習の目的・目標について】**

ドイツ語では現在選択必修・選択に分け、次のような講義を開講している。

- 【選択必修】** 基礎ドイツ語 A I (前学期 1 単位)、  
基礎ドイツ語 A II (後学期 1 単位)

- 【選択】** 基礎ドイツ語 B (前・後学期 1 単位)  
選択ドイツ語 A (前・後学期 1 単位)  
選択ドイツ語 B I (前学期 1 単位)  
選択ドイツ語 B II (後学期 1 単位)  
選択ドイツ語 C I (前学期 1 単位)  
選択ドイツ語 C II (後学期 1 単位)

1. ドイツ語を学習する第一の目的は、先に述べた『言葉の役割』に鑑みて、「ドイツ語の学習を通じ、言葉によってものを考える力を養う」ことにある。基礎ドイツ語 A I・A IIにおいては、ドイツ語初級文法の全体的な成り立ち方を論理的に理解・定着させることにより、ドイツ語文法の基礎を習得し、新たな思考の枠組みを作り上げることを目標とする。
2. 基礎ドイツ語 Bにおいては、『母（国）語と外国語』で述べた言語が文化を規定する面に重点をおいて学習することを目的とする。言語が文化ともっとも直接に関わるのは、その表現においてである。基礎ドイツ語 Bにおいては、ドイツ語の表現力を養うことにより、ドイツ語独自の文化形式を理解することが目標となる。文法そのものが対象ではないので、様々な教材を用いる可能性がある。また、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力の育成、長文読解を通じての表現力の涵養や、もっと直接に独作文による表現力の養成も可能である。なお、前学期または後学期一単位ではこの目的にはとても足りないので、選択ドイツ語 Aも併せて履修することを強く推奨する。選択ドイツ語 Aにおいて目的・目標とされることは、基本的には基礎ドイツ語 Bの発展である。
3. 選択ドイツ語 B I・B IIにおいては、『ドイツ語を学ぶ意義』で述べた近現代のドイツの重要性と深く関わる部分にスポットを当てて学習することを目的とする。これも教師がどの部分を重視するかによって、選ばれる教材は異なる。ある教師は、直接にドイツの現代の環境問題について述べたテキストを教材に選ぶかもしれない。ある教師は、現代ドイツの環境問題は、ドイツの思想界・文学界が積み上げてきた自然との格闘にその根源を持つと考えて、ゲーテの詩を読むかもしれない。また、ある教師は、ドイツ語の多元的・複合的社会の創造を担う側面を重視したり、ドイツ語のコミュニケーション能力をさらに発展させる授業を行うかも知れない。
4. 選択ドイツ語 C I・C IIにおいては、『英語以外の言語を学ぶ重要性（眞の国際性の養成）』や『ドイツ語を学ぶ意義』で述べられた内容を最も高いレベルにおいて、実現するものとなる。

**【履修上の注意点】**

- (1) 基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているので、所定のクラスで受講すること。
- (2) 十分なドイツ語の力を身につけるためには選択ドイツ語 A、選択ドイツ語 B I、B II、選択ドイツ語 C I、C II を積極的に受講することが望ましい。  
※再履修に関して
  - (1) 再履修に関しても基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているので、所定のクラスでの受講者を優先する。
  - (2) 所定のクラス以外での受講は適正規模の範囲内で認められる。
  - (3) 受講希望者数が適正規模を超えた場合には履修を制限することがあるので、掲示に注意すること。

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

機械知能工学科 第1年次 前学期 選択必修 1 単位

担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

**●授業の位置付け**

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らないことはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後学期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

後学期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

**4. 授業計画**

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「ガイダンス」、「文法事項の説明+練習」、「総合練習」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貢う。

**5. 評価方法**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしていっては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：文法システム15（新訂版）2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

機械知能工学科・建設社会工学科 第1年次 前学期 選択必修  
1単位  
担当教員 藤澤 正明

**1. 概要****●授業の背景**

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にはあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

**●授業の目的**

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

**●授業の位置付け**

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベットと発音

動詞の現在人称変化

動詞の位置

名詞・冠詞

定冠詞・不定冠詞

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

再帰動詞・zu不定詞

話法の助動詞

動詞の時称と三基本形

過去

現在完了

分離動詞・非分離動詞

形容詞・副詞・分詞

比較級・最上級

受動態

接続詞

関係代名詞・関係副詞・命令文

接続法

**5. 評価方法・基準**

前学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書****●教科書**

太田隆士他：楽しいドイツ語トレーニング（三修社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

機械知能工学科・建設社会工学科 第1年次 前学期 選択必修  
1単位  
担当教員 能木 敬次

**1. 概要**

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

**2. キーワード**

ドイツ、独検

**3. 到達目標**

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見るものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

**4. 授業計画**

- 第1回 導入 アルファベット・発音練習
- 第2回 Lektion 1 動詞の人称変化
- 第3回 Lektion 2 ''
- 第4回 Lektion 3 語順
- 第5回 Lektion 3 副文・接続詞
- 第6回 Lektion 4 前置詞
- 第7回 Lektion 5 ''
- 第8回 Lektion 5 不規則動詞
- 第9回 Lektion 6 冠詞類の格変化
- 第10回 Lektion 6 ''
- 第11回 Lektion 7 形容詞の格変化
- 第12回 Lektion 7 ''
- 第13回 Lektion 8 再帰代名詞
- 第14回 Lektion 9 分離動詞
- 第15回 ( 試験 )

**5. 評価方法・基準**

定期試験(40%) および小テスト(60%) で評価する。  
60点以上を合格とする。

**7. 教科書・参考書**

【図書名】『ドイツめぐり [ユーロ版]』(Deutschlandreise)

【著者名】宇佐美幸彦 他 著

【出版社】朝日出版社

【価格】 2400円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

## 基礎ドイツ語 A I Basic German A I

建設社会工学科 第一年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 古賀 正之

### 1. 概要

#### ●授業の背景

別項「ドイツ語授業科目について」(外国語を学ぶ意義)を参照。

#### ●授業の目的

別項「ドイツ語授業科目について」(ドイツ語の授業の目的・目標について)を参照。

#### ●授業の位置付け

同上。

### 2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

### 3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

### 4. 授業計画

#### {0} つづりと発音

#### {1} 動詞の形（人称変化）、語順

#### {2} 名詞の形1（1格）

#### {3} 名詞の形2（4格）

#### {4} 名詞に付けて用いる語（所有冠詞など）

\*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。

1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

### 5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

特になし。

### 7. 教科書・参考書

【教科書】在間進：話すぞドイツ語！ V2 (朝日出版社)

なお、教科書には単語集（独和索引）が含まれている。

### 8. オフィスアワー

## 基礎ドイツ語 A I Basic German A I

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 藤澤 正明

### 1. 概要

#### ●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

#### ●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

#### ●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

### 2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

### 3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようとする。

### 4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

動詞の現在人称変化

動詞の位置

名詞・冠詞

定冠詞・不定冠詞

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

再帰動詞・zu不定詞

話法の助動詞

動詞の時称と三基本形

過去

現在完了

分離動詞・非分離動詞

形容詞・副詞・分詞

比較級・最上級

受動態

接続詞

関係代名詞・関係副詞・命令文

接続法

### 5. 評価方法・基準

前学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

### 7. 教科書・参考書

#### ●教科書

太田隆士他：楽しいドイツ語トレーニング（三修社）

### 8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

**●授業の位置付け**

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後学期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

後学期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

**4. 授業計画**

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「ガイダンス」、「文法事項の説明+練習」、「総合練習」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貢う。

**5. 評価方法**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしていっては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：文法システム15（新訂版）2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

電気3組 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

**1. 概要****●授業の背景**

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

**●授業の位置付け**

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強調で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

**2. キーワード**

外国語、思考力、国際化

**3. 到達目標**

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独立で読めるようにする。

**4. 授業計画**

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

**(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期**

- ・ドイツ語の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

**(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期**

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

**(3) 展開期——豊かな表現をめざして**

- ・比較の仕方　· zu不定詞　· 受動態
- ・関係代名詞　· 接続法　など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記の(1)導入期の内容を学習する。

**5. 評価方法・基準**

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

**6. 履修上の注意事項**

授業が始まると前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：湯浅英男編

在間進「新生ドイツ語文法 V4」（朝日出版社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

**8. オフィスアワー等**

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

電気工学科 第一年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 古賀 正之

**1. 概要**

●授業の背景

別項「ドイツ語授業科目について」(外国語を学ぶ意義)を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語授業科目について」(ドイツ語の授業の目的・目標について)を参照。

●授業の位置付け

同上。

**2. キーワード**

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

**3. 到達目標**

独検4級程度のドイツ語の習得。

**4. 授業計画**

{1} あいさつと自己紹介

- ①動詞の現在人称変化1 規則動詞
- ②動詞の現在人称変化2 sein, haben
- ③定動詞の位置
- ④ja/nein/doch

{2} 買い物をする

- ⑤定冠詞・不定冠詞+名詞の格変化
- ⑥人称代名詞
- ⑦名詞の複数形

{3} 家族のことを話す

- ⑧dieser型冠詞類・mein型冠詞類+名詞の格変化
- ⑨2格の使い方
- ⑩否定文

\*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。

1つのユニットはおよそ5回の授業で終了する予定。

**5. 評価方法・基準**

期末試験および演習(発表と受講態度)の結果で評価する。60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

特になし。

**7. 教科書・参考書**

[教科書] 山本淳:新々・じゃあまたあした! (同学社)  
なお、教科書には単語集(独和索引)が含まれている。

**8. オフィスアワー**

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 藤澤 正明

**1. 概要**

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようとする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

アルファベット、つづりと発音

動詞の現在人称変化

名詞と定冠詞(類)

不定冠詞(類)

不規則変化動詞と前置詞

zu不定詞

形容詞の変化と用法

動詞の3基本形、過去人称変化

現在完了、話法の助動詞

分離・非分離動詞、再帰表現

関係代名詞、形容詞の比較変化

受動態

分離動詞

接続法

**5. 評価方法・基準**

前学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書**

●教科書

西本美彦他:システムティック・ドイチュ12(郁文堂)

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定(曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり)

## 基礎ドイツ語 A I Basic German A I

物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

### 1. 概要

#### ●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

#### ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

#### ●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後学期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

### 2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

### 3. 到達目標

後学期の「基礎ドイツ語 A II」が終わった段階で、辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持って行く。

### 4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第7課まで進む予定。各課は、「ガイダンス」、「文法事項の説明+練習」、「総合練習」という構成である。授業では2回に1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貢う。

### 5. 評価方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしていっては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：文法システム15（新訂版）2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

### 8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

## 基礎ドイツ語 A I

物質工学科 第1年次 前学期（水曜2限）選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

### 1. 概要

#### ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

#### ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

#### ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靭で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

### 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

### 3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

### 4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

#### (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

#### (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

#### (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 · zu 不定詞 · 受動態
- ・関係代名詞 · 接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記 (1) 導入期の内容を学習する。

### 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

### 6. 履修上の注意事項

授業が始まると前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：西本他著「エクセ12 - ドイツ文法（新改訂版）」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

### 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A I Basic German A I**

物質工学科 第1年次 前学期（水曜3限） 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

**1. 概要****●授業の背景**

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっぽう国際化が進みつつある。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

**●授業の位置付け**

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靭で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

**2. キーワード**

外国語、思考力、国際化

**3. 到達目標**

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独立で読めるようにする。

**4. 授業計画**

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

**(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期**

- ・ドイツ語の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

**(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期**

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

**(3) 展開期——豊かな表現をめざして**

- ・比較の仕方 · zu 不定詞 · 受動態
- ・関係代名詞 · 接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記 (1) 導入期の内容を学習する。

**5. 評価方法・基準**

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

**6. 履修上の注意事項**

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：西本他「システムティック ドイチュ12」(郁文堂)

参考書：授業中に適宜紹介する。

**8. オフィスアワー等**

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

機械知能工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

**●授業の位置付け**

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らないことはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前学期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持っていく。

**4. 授業計画**

教科書は15課からなっているが、第8課から始める予定。各課は、「ガイダンス」、「文法事項の説明+練習」、「総合練習」という構成である。授業では1~2回で1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貢う。

**5. 評価方法**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしていれば学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：文法システム15(新訂版) 2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

**基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

機械知能工学科・建設社会工学科 第1年次 後学期 選択必修  
1単位

担当教員 藤澤 正明

**1. 概要****●授業の背景**

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

**●授業の目的**

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

**●授業の位置付け**

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようにする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

動詞の現在人称変化

動詞の位置

名詞・冠詞

定冠詞・不定冠詞

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

再帰動詞・zu不定詞

話法の助動詞

動詞の時称と三基本形

過去

現在完了

分離動詞・非分離動詞

形容詞・副詞・分詞

比較級・最上級

受動態

接続詞

関係代名詞・関係副詞・命令文

接続法

**5. 評価方法・基準**

後学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書****●教科書**

太田隆士他：楽しいドイツ語トレーニング（三修社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

機械知能工学科・建設社会工学科 第1年次 後学期 選択必修  
1単位

担当教員 能木 敬次

**1. 概要**

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

**2. キーワード**

ドイツ、独検

**3. 到達目標**

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見るものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。

将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

**4. 授業計画**

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	( 試験 )	

**5. 評価方法・基準**

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。  
60点以上を合格とする。

**7. 教科書・参考書**

【図書名】『ドイツめぐり[ユーロ版]』(Deutschlandreise)

【著者名】宇佐美幸彦 他 著

【出版社】朝日出版社

【価格】2400円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

## 基礎ドイツ語 A II Basic German A II

建設社会工学科 第一年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 古賀 正之

### 1. 概要

#### ●授業の背景

別項「ドイツ語授業科目について」(外国語を学ぶ意義)を参照。

#### ●授業の目的

別項「ドイツ語授業科目について」(ドイツ語の授業の目的・目標について)を参照。

#### ●授業の位置付け

同上。

### 2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

### 3. 到達目標

独検4級程度のドイツ語の習得。

### 4. 授業計画

{5} 二つ以上のものを表す表現（複数形）

{6} 名詞の形3（2格と3格）、人称代名詞

{7} 名詞と一緒に用いる語（前置詞）

{8} 二つの部分に分かれる動詞（分離動詞）

{9} 動詞を従える動詞（話法の助動詞）／（未来形）

\*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。

1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

### 5. 評価方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

特になし。

### 7. 教科書・参考書

[教科書] 在間進：話すぞドイツ語！ V2 (朝日出版社)

### 8. オフィスアワー

## 基礎ドイツ語 A II Basic German A II

電気工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

### 1. 概要

#### ●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

#### ●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

#### ●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

### 2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

### 3. 到達目標

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようとする。

### 4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

アルファベートと発音

動詞の現在人称変化

動詞の位置

名詞・冠詞

定冠詞・不定冠詞

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

再帰動詞・zu不定詞

話法の助動詞

動詞の時称と三基本形

過去

現在完了

分離動詞・非分離動詞

形容詞・副詞・分詞

比較級・最上級

受動態

接続詞

関係代名詞・関係副詞・命令文

接続法

### 5. 評価方法・基準

後学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

### 7. 教科書・参考書

#### ●教科書

太田隆士他：楽しいドイツ語トレーニング（三修社）

### 8. オフィスアワー等

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

電気工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

**●授業の位置付け**

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前学期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

**2. キーワード**

基礎文法、発音、基本表現

**3. 到達目標**

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持つて行く。

**4. 授業計画**

教科書は15課からなっているが、第8課から始める予定。各課は、「ガイダンス」、「文法事項の説明+練習」、「総合練習」という構成である。授業では1~2回で1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

**5. 評価方法**

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしていっては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：文法システム15（新訂版）2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

**基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

電気3組 第1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

**1. 概要****●授業の背景**

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

**●授業の位置付け**

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靭で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

**2. キーワード**

外国語、思考力、国際化

**3. 到達目標**

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

**4. 授業計画**

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

## (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

## (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

## (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 · zu 不定詞 · 受動態
- ・関係代名詞 · 接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2), (3) の内容を学習する。

**5. 評価方法・基準**

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

**6. 履修上の注意事項**

授業が始まると前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：湯浅英男編

在間進「新生ドイツ語文法 V4」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

**8. オフィスアワー等**

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

電気工学科 第一年次 後学期 選択必修 1 単位  
担当教員 古賀 正之

**1. 概要****●授業の背景**

別項「ドイツ語授業科目について」(外国語を学ぶ意義)を参照。

**●授業の目的**

別項「ドイツ語授業科目について」(ドイツ語の授業の目的・目標について)を参照。

**●授業の位置付け**

同上。

**2. キーワード**

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

**3. 到達目標**

独検4級程度のドイツ語の習得。

**4. 授業計画**

## {4} 週末の予定は?

- ①動詞の現在人称変化 3 不規則動詞
- ②前置詞

## {5} 駅やレストランで

- ③分離動詞・非分離動詞
- ④話法の助動詞
- ⑤接続詞

## {6} Berlin旅行の後で／お礼の手紙

- ⑥命令文
- ⑦動詞の3基本形
- ⑧過去の表現

\*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行う。

1つのユニットはおよそ5回の授業で終了する予定。

**5. 評価方法・基準**

期末試験および演習(発表と受講態度)の結果で評価する。60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

特になし。

**7. 教科書・参考書**

[教科書] 山本淳:新々・じゃあまたあした! (同学社)

**8. オフィスアワー****基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

物質工学科 第1年次 後学期 選択必修 1 単位  
担当教員 藤澤 正明

**1. 概要****●授業の背景**

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

**●授業の目的**

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

**●授業の位置付け**

1年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語文法の基本事項を理解し、日本語とは異なる新たな思考の枠組みに慣れるようとする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(後学期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

アルファベット、つづりと発音

動詞の現在人称変化

名詞と定冠詞(類)

不定冠詞(類)

不規則変化動詞と前置詞

zu不定詞

形容詞の変化と用法

動詞の3基本形、過去人称変化

現在完了、話法の助動詞

分離・非分離動詞、再帰表現

関係代名詞、形容詞の比較変化

受動態

分離動詞

接続法

**5. 評価方法・基準**

後学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書****●教科書**

西本美彦他:システムティック・ドイチュ12(郁文堂)

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定(曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり)

## 基礎ドイツ語 A II Basic German A II

物質工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

### 1. 概要

#### ●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

#### ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

#### ●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前学期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

### 2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

### 3. 到達目標

辞書を使えば簡単な文章なら読める、最低限必要な表現を何も見ずに言える、というところまで持つて行く。

### 4. 授業計画

教科書は15課からなっているが、第8課から始める予定。各課は、「ガイダンス」、「文法事項の説明+練習」、「総合練習」という構成である。授業では1~2回で1課進む予定である。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

### 5. 評価方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

### 6. 履修上の注意事項

授業中に慌てて辞書を引いたりしていっては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：文法システム15（新訂版）2000円

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

### 8. 学生面会時間

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

## 基礎ドイツ語 A II Basic German A II

物質工学科 第1年次 後学期（水曜2限）選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

### 1. 概要

#### ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

#### ●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

#### ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靭で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

### 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

### 3. 到達目標

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

### 4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

#### (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

#### (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

#### (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 · zu 不定詞 · 受動態
- ・関係代名詞 · 接続法 など。

基礎ドイツ語 A II の授業では、上記 (2), (3) の内容を学習する。

### 5. 評価方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

### 6. 履修上の注意事項

授業が始まると前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：西本他著「エクセ12 - ドイツ文法（新改訂版）」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

### 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 A II Basic German A II**

物質工学科 第1年次 後学期（水曜3限） 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

**1. 概要****●授業の背景**

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっぽう国際化が進みつつある。

**●授業の目的**

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形成するのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

**●授業の位置付け**

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靭で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

**2. キーワード**

外国語、思考力、国際化

**3. 到達目標**

講義修了後には、辞書を用いて簡単なドイツ語の文章が独力で読めるようにする。

**4. 授業計画**

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

## (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

## (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

## (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 · zu 不定詞 · 受動態
- ・関係代名詞 · 接続法 など。

基礎ドイツ語A IIの授業では、上記(2), (3)の内容を学習する。

**5. 評価方法・基準**

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

**6. 履修上の注意事項**

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：西本他「システムティック ドイチュ12」(郁文堂)

参考書：授業中に適宜紹介する。

**8. オフィスアワー等**

別途掲示する。

**基礎ドイツ語 B Basic German B**

機械知能工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

「基礎ドイツ語 A I」「基礎ドイツ語 A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

**●授業の位置付け**

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大重要な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行なう。

**2. キーワード**

表現練習、コミュニケーション

**3. 到達目標**

簡単で必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。  
基本単語を綴りを間違えずに書ける。

**4. 授業計画**

教科書は24課からなっており、各課は、会話スケッチ、文法事項の簡単な説明、練習に分かれている。授業では1回あたり2課進む予定である。予習の際は正しく発音し、意味を調べ、練習をやってみること。

**5. 評価方法**

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしてみては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：諏訪功編：半期・通年のドイツ語入門(同学社)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

## 基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

### 1. 概要

#### ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっぽう国際化が進みつつある。

#### ●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初步的な読み解き・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

#### ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靭で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

### 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

### 3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初步的なコミュニケーション能力を養う。

### 4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

#### (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

#### (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

#### (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 · zu不定詞 · 受動態
- ・関係代名詞 · 接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

毎週1ページ強のドイツ語の文章を読み、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。教科書のみならず、必要に応じてプリント等で独作文の練習も行う。

### 5. 評価方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

### 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：未定

参考書：授業中に適宜紹介する。

### 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

## 基礎ドイツ語 B Basic German B

機械知能工学科・建設社会工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 Erwin Niederer

### 1. 目的

基本的な文法と単語をもとに、ドイツ語をゼロから学べるようなコースになっています。ドリルの練習によって、少しづつ簡単な会話の力をつけることが大事な目的の一つです。具体的なダイアログによって日本とドイツの生活や、文化と言葉の違いについての勉強

強によって国際的な考え方を深めることも大切なポイントになっています。

### 2. 授業計画

1. 教材(文法読本)のドイツ語を正しく発音することができる。
2. 基本的な文法事項・語彙・文型について説明することができる。
3. 初級レベルのドイツ語作品を日本語に訳すことができる。
4. 与えられた簡単な日本文をドイツ語に訳すことができる。
5. 辞典を利用する場合に、適切な語や例文を選ぶことができる。

### 3. 評価方法

試験結果と平常点で評価する。

### 4. 履修上の注意事項

(1) よほど特別な理由がない限り毎回出席すること。

(2) 授業に積極的に参加すること。

### 5. 教科書

平川・Niederer他編「やさしいドイツ語 - 総合教材-」同学社  
ISBN 4-8102-0715-3

**基礎ドイツ語B Basic German B**

機械工学科、建設社会工学科 第1年次 後期 選択必修 1単位  
担当教員 Andreas Kasjan

**1. 概要****●授業の背景**

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

**●授業の目的**

基礎ドイツ語Aで学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する応用能力を身につける。

**●授業の位置づけ**

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

**2. キーワード**

ドイツ語、コミュニケーションの道具、応用能力、正確さ・創造力

**3. 到達目標**

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

**4. 授業計画**

第1回 発音、イントネーション、アクセント

第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する

第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する

第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する

第5回 中間まとめ

第6回 人を紹介する

第7回 数字や略語

第8回 中間まとめ

第9回 勉強と語学学習

第10回 様々な国とその言語・人

第11回 中間まとめ

第12回 趣味、興味

第13回 趣味、興味（続き）

第14回 中間まとめ

第15回 期末試験（後述）

**5. 評価方法・基準****●期末試験 (50%)****●小テスト (25%)****●授業中のパフォーマンス (25%)****6. 履修上の注意事項**

●全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。

●入室ができるのは授業開始後20分までです。

●授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。

●クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

**7. 教科書・参考書など****●教科書: Szenen 1 neu. (三修社)****●参考書: 独和辞典****●青、赤、黄色、緑のマーカー****8. 面会時間**

授業終了直後

@: kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

**基礎ドイツ語B Basic German B**

建設社会工学科 第1年次 後学期 選択必修 1単位

担当教員 藤澤 正明

**1. 概要****●授業の背景**

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

**●授業の目的**

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

**●授業の位置付け**

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようになる。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

Blümchen

Julianne Werding

Nena

Silbermond

böhse onkelz

Samajona

Münchner Freiheit

Rosenstolz

Juli

Space Kelly

band ohne namen

Klee

2raumwohnung

**5. 評価方法・基準**

後学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書****●教科書**

鈴木康志他: D-Popで学ぶドイツ語！（同学社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎ドイツ語 B Basic German B**

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 藤澤 正明

**1. 概要****●授業の背景**

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にはあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

**●授業の目的**

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

**●授業の位置付け**

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようとする。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

おはようございます

タナカマコトと申します

何をしているの？

その帽子はいくらですか？

コーヒーが一杯欲しい

こちらザビーネです

何を注文する？

市庁舎へはどう行ったらいいのですか？

歩いてホテルまで行くことができますか？

その列車は何時に発車しますか？

音楽に興味があります

とてもよかったです！

おいしかった！

**5. 評価方法・基準**

前学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書****●教科書**

秋田静男他：ドイツ語インフォメーション（朝日出版社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎ドイツ語 B Basic German B**

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

「基礎ドイツ語A I」「基礎ドイツ語A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

**●授業の位置付け**

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大重要な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行なう。

**2. キーワード**

表現練習、コミュニケーション

**3. 到達目標**

簡単で必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。

基本単語を綴りを間違えずに書ける。

**4. 授業計画**

教科書は24課からなっており、各課は、会話スケッチ、文法事項の簡単な説明、練習に分かれている。授業では1回あたり2課進む予定である。予習の際は正しく発音し、意味を調べ、練習をやってみること。

**5. 評価方法**

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしていては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：諏訪功編：半期・通年のドイツ語入門（同学社）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

## 基礎ドイツ語 B

電気工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

### 1. 概要

#### ●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

#### ●授業の目的

基礎ドイツ語 Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初步的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

#### ●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靭で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

### 2. キーワード

外国語、思考力、国際化

### 3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初步的なコミュニケーション能力を養う。

### 4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

#### (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

#### (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

#### (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 · zu不定詞 · 受動態
- ・関係代名詞 · 接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

### 5. 評価方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

### 6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

### 7. 教科書・参考書

教科書：橋本他「CD付き 楽しく学ぼうドイツとドイツ語」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

### 8. オフィスアワー等

別途掲示する。

## 基礎ドイツ語 B Basic German B

電気工学科・物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 Erwin Niederer

### 1. 目的

基本的な文法と単語をもとに、ドイツ語をゼロから学べるようなコースになっています。ドリルの練習によって、少しづつ簡単な会話の力をつけることが大事な目的の一つです。具体的なダイアログによって日本とドイツの生活や、文化と言葉の違いについての勉強によって国際的な考え方を深めることも大切なポイントとなっています。

### 2. 授業計画

1. 教材(文法読本)のドイツ語を正しく発音することができる。
2. 基本的な文法事項・語彙・文型について説明することができる。
3. 初級レベルのドイツ語作品を日本語に訳すことができる。
4. 与えられた簡単な日本文をドイツ語に訳すことができる。
5. 辞典を利用する場合に、適切な語や例文を選ぶことができる。

#### 3. 評価方法

試験結果と平常点で評価する。

### 4. 履修上の注意事項

- (1) よほど特別な理由がない限り毎回出席すること。
- (2) 授業に積極的に参加すること。

### 5. 教科書

小黒他編「ともかく話そうドイツ語」郁文堂

**基礎ドイツ語B Basic German B**

電気工学科、物質工学科 第1年次 前期 選択必修 1単位  
担当教員 Andreas Kasjan

**1. 概要****●授業の背景**

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

**●授業の目的**

基礎ドイツ語Aで学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する応用能力を身につける。

**●授業の位置づけ**

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

**2. キーワード**

ドイツ語、コミュニケーションの道具、応用能力、正確さ・創造力

**3. 到達目標**

自分から進んで簡単なドイツ語で日常的なことを述べたり尋ねたりできるようになることを目指す。

**4. 授業計画**

第1回 発音、イントネーション、アクセント

第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する

第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する

第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する

第5回 中間まとめ

第6回 人を紹介する

第7回 数字や略語

第8回 中間まとめ

第9回 勉強と語学学習

第10回 様々な国とその言語・人

第11回 中間まとめ

第12回 趣味、興味

第13回 趣味、興味（続き）

第14回 中間まとめ

第15回 期末試験（後述）

**5. 評価方法・基準****●期末試験 (50%)****●小テスト (25%)****●授業中のパフォーマンス (25%)****6. 履修上の注意事項**

●全授業回数の3分の1以上を欠席した学生には、単位は出しません。

●入室ができるのは授業開始後20分までです。

●授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。

●クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

**7. 教科書・参考書など****●教科書: Szenen 1 neu, (三修社)****●参考書: 独和辞典****●青、赤、黄色、緑のマーカー****8. 面会時間**

授業終了直後

@: kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

**基礎ドイツ語B Basic German B**

物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 藤澤 正明

**1. 概要****●授業の背景**

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

**●授業の目的**

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

**●授業の位置付け**

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、選択ドイツ語につながる学力を修得する。

**2. キーワード**

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語の基本的表現を理解し、日本語とは異なる新たな文化形式に慣れるようになる。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

おはようございます

タナカマコトと申します

何をしているの？

その帽子はいくらですか？

コーヒーが一杯欲しい

こちらザビーネです

何を注文する？

市庁舎へはどう行ったらいいですか？

歩いてホテルまで行くことができますか？

その列車は何時に発車しますか？

音楽に興味があります

とてもよかったです！

おいしかった！

**5. 評価方法・基準**

前学期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書****●教科書**

秋田静男他：ドイツ語インフォメーション（朝日出版社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎ドイツ語 B Basic German B**

物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

「基礎ドイツ語A I」「基礎ドイツ語A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

**●授業の位置付け**

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

**2. キーワード**

表現練習、コミュニケーション

**3. 到達目標**

簡単で必須の会話表現を何も見ずに言える。正しく発音できる。  
基本単語を綴りを間違えずに書ける。

**4. 授業計画**

教科書は24課からなっており、各課は、会話スケッチ、文法事項の簡単な説明、練習に分かれている。授業では1回あたり2課進む予定である。予習の際は正しく発音し、意味を調べ、練習をやってみること。

**5. 評価方法**

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしていっては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：諏訪功編：半期・通年のドイツ語入門（同学社）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

**基礎ドイツ語 B**

物質工学科 第1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 岡野 裕司

**1. 概要****●授業の背景**

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

**●授業の目的**

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初步的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

**●授業の位置付け**

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強調で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

**2. キーワード**

外国語、思考力、国際化

**3. 到達目標**

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初步的なコミュニケーション能力を養う。

**4. 授業計画**

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

## (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化  
(人称代名詞も含めて)

## (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方  
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法

- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

## (3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方　· zu 不定詞　· 受動態
- ・関係代名詞　· 接続法　など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

**5. 評価方法**

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

**6. 履修上の注意事項**

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：入谷他「新ドイツ語コミュニケーション」三修社  
参考書：授業中に適宜紹介する。

**8. オフィスアワー等**

別途掲示する。

**選択ドイツ語A Elective German A**

全学科 第1年次 後学期 選択 1単位  
担当教員 今井 敦

**1. 概要****●授業の背景**

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化したとき、ようやく我々のものになると考えられる。

**●授業の目的**

基礎ドイツ語A、基礎ドイツ語Bで学んだ知識をもとに、その知識を生きたものとして使いこなすことができるようとする。それを通じてドイツ語圏の文化や社会に出会う。

**●授業の位置付け**

頭で知っている、というレベルから、自らの技能として身に付ける、というレベルへの発展。つまり、基礎段階の完成、ドイツ語学習の始まりの終わり。

**2. キーワード**

会話表現、平易な文章の読解、コミュニケーション、文化事情

**3. 到達目標**

半年の授業では到底充分ではないが、辞書を使えば簡単な文章を独力で正確に読める、最低限必要な表現を何も見ずに正しい発音で言える、というところまで持って行く。

**4. 授業計画**

- 第1回：アルファベートと発音の復習
- 第2回：紹介する・動詞の復習
- 第3回：冠詞と名詞の格変化の復習
- 第4回：前置詞の復習
- 第5回：詞性の助動詞、再帰動詞の復習
- 第6回：分離動詞・未来形の復習
- 第7回：比較の復習
- 第8回：形容詞の格変化の復習
- 第9回：現在完了の復習
- 第10回：過去形の復習
- 第11回：接続詞の復習
- 第12回：受動態の復習
- 第13回：関係代名詞の復習
- 第14回：接続法の復習
- 第15回：試験

**5. 評価方法**

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

授業中に慌てて辞書を引いたりしていっては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

**7. 教科書・参考書**

教科書：西村祐子著『改訂版 ドイツ語へようこそ!』(同学社)  
参考書：一年のときに使った文法の教科書（予習の際参照すること）

**8. 学生面会時間**

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

**選択ドイツ語A Elective German A**

全学科 第1年次 後学期 選択 1単位  
担当教員 能木 敏次

**1. 概要**

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見るものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。

将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

**2. キーワード**

ドイツ、独検

**3. 到達目標**

前学期に学習した基本文法の知識を短めの読本演習で確認しながら、接続詞・形容詞の不可語変化・完了形といった後学期学習予定の文法を教える。テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

**4. 授業計画**

- 第1回 導入 オリエンテーリング
- 第2回 Lektion 1
- 第3回 Lektion 2
- 第4回 Lektion 3
- 第5回 Lektion 4
- 第6回 Lektion 5
- 第7回 Lektion 6
- 第8回 Lektion 7
- 第9回 Lektion 8
- 第10回 Lektion 9
- 第11回 Lektion 10
- 第12回 Lektion 11
- 第13回 Lektion 12
- 第14回 Lektion 13
- 第15回 ( 試験 )

**5. 評価方法・基準**

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。  
60点以上を合格とする。

**6. 教科書・参考書**

【図書名】『希望のドイツ語』(Zwischen Berg und Tal)  
【著者名】小塩節著  
【出版社】朝日出版社  
【価格】2300円  
【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

選択ドイツ語 A Elective German A

全学科 第2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 能木 敏次

1. 概要

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見るものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

ドイツ語の基礎的文法知識を踏まえて、一定のテーマを持った比較的簡単なドイツ語文を読む訓練をする。辞書を使いながら一貫した文脈のあるドイツ語文を読む技術を身につけるのがこの授業の目標である。

4. 授業計画

第1回 導入 オリエンテーリング

第2回 Lektion 1

第3回 Lektion 2

第4回 Lektion 3

第5回 授業調整

第6回 Lektion 4

第7回 Lektion 5

第8回 Lektion 6

第9回 授業調整

第10回 Lektion 7

第11回 Lektion 8

第12回 Lektion 9

第13回 数学・物理用語演習

第14回 数学・物理用語演習

第15回 ( 試験 )

5. 評価方法・基準

定期試験(40%) および小テスト(60%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 教科書・参考書

【図書名】『やる気の起こるドイツ語-応用編-』(Deutsch Mittelstufe)

【著者名】伊藤富雄、他著

【出版社】同学社

【価格】1900円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著 同学社 4200円

選択ドイツ語 B I Elective German B I

全学科 第2年次 前学期 必修 1単位

担当教員 岡野 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初步的な読み解き力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強調で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

ドイツ語の文章を多く読んだり、作文や会話練習などで表現力を増すことで、ドイツ語による初步的なコミュニケーション能力を養う。

4. 授業計画

毎週1ページ強のドイツ語の文章を読み、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。教科書のみならず、必要に応じてプリント等で独作文の練習も行う。

5. 評価方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：本橋他「グリム童話で学ぶドイツ語 Part II」郁文堂

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー等

別途掲示する。

**選択ドイツ語 B I    Elective German BI**

全学科 第2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 Erwin Niederer

**1. 目的**

根本的な知識を深めるために、基本的な文法と単語を復習することが主な目的である。発音で自然なイントネーションを目指すために会話用の練習も行う。

**2. 授業計画**

教科書の内容を中心に授業を行う。プリント教材も使用する。

**3. 評価方法**

試験結果と平常点で評価する。

**4. 履修上の注意事項**

まじめに取り組むこと。

**5. 教科書・参考書**

小塩節「楽しいドイツ語1A（新訂版）」朝日出版社

**選択ドイツ語 B II    Elective German B II**

全学科 第2年次 後学期 選択 1単位

担当教員 藤澤 正明

**1. 概要****●授業の背景**

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

**●授業の目的**

ドイツのポップスやロックを扱った平明なテキストを素材にして、音声、文字の両面からドイツ語とドイツに関する理解力を発展させる。

**●授業の位置付け**

1年次に基礎ドイツ語A、Bで修得したドイツ語の基礎を発展させ、選択ドイツ語Cへつながる学力を養成する。

**2. キーワード**

ドイツ語、ドイツ、言葉、文化、国際性

**3. 到達目標**

ドイツ語とドイツに関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力を発展させる。

**4. 授業計画**

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

Blümchen

Julianne Werding

Nena

Silbermond

böhse onkelz

Samajona

Münchner Freiheit

Rosenstolz

Juli

Space Kelly

band ohne namen

Klee

2raumwohnung

**5. 評価方法・基準**

後学期期試験の成績を基本に教室での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

**7. 教科書・参考書****●教科書**

鈴木康志他：D-Popで学ぶドイツ語！（同学社）

**8. オフィスアワー等**

学生相談日を設定（曜日、時間帯はE102に掲示、改修工事により部屋移動の可能性あり）

**基礎中国語 A I Basic Chinese A I**

機械知能・建設社会 1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初步的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

**4. 授業計画**

第1回 中国語概説

第2回 発音 (1) 单母音、声調

第3回 発音 (2) 重母音、鼻母音

第4回 発音 (3) 子音

第5回 発音 (4) 声調変化、発音のまとめ

第6回 名詞述語文

第7回 復習

第8回 形容詞述語文

第9回 復習

第10回 動詞述語文

第11回 復習

第12回 所有表現、物の数え方

第13回 復習

第14回 存在文・連動文

第15回 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験 (70%)、小テスト・出席点 (30%)

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

履修者が各クラスにつき45人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前学期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：話したくなる中国語 周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓越 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**基礎中国語 A I Basic Chinese A I**

電気工学科 1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じができるだろう。本講義を通じて中国語の初步的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

**4. 授業計画**

第1回 中国語概説

第2回 発音 (1) 单母音、声調

第3回 発音 (2) 重母音、鼻母音

第4回 発音 (3) 子音

第5回 発音 (4) 声調変化、発音のまとめ

第6回 名詞述語文

第7回 復習

第8回 形容詞述語文

第9回 復習

第10回 動詞述語文

第11回 復習

第12回 所有表現、物の数え方

第13回 復習

第14回 存在文・連動文

第15回 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験 (70%)、小テスト・出席点 (30%)

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

履修者が各クラスにつき45人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前学期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：話したくなる中国語 周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓越 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**基礎中国語 A I Basic Chinese A I**

物質工学科 1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 板谷 秀子

**1. 概要**

中国語の習得方法には2通りある。

視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初步なのだ。

**2. キーワード**

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

**3. 到達目標**

普通話の正確な発音

初級会話のヒアリング力

**4. 授業計画**

1. 中国語 概説 中国語のおもしろさ
2. 発音基礎練習 声調
3. 発音基礎練習 母音
4. 発音基礎練習 子音
5. 発音基礎練習 有気音・無気音
6. テキスト第一課 疑問文①名前をたずねる
7. テキスト第二課 疑問詞疑問文 何を飲む？
8. テキスト第三課 動詞の使い方 何しているの？
9. ク
10. テキスト第四課 形容詞の使い方 新車は？
11. ク
12. テキスト第五課 助動詞の使い方 できますか？
13. ク
14. 総復習
15. 定期試験

**5. 評価方法**

基準

定期試験90% 平常点10%

60点以上を合格とする

**6. 履修上の注意事項**

出席重視

2/3以上の出席必須

**7. 教科書・参考書**

教科書：北京コレクション入門編（朝日出版社）

**基礎中国語 A II Basic Chinese A II**

機械知能・建設社会 1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初步的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中國語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

**4. 授業計画**

- 第1回 復習
- 第2回 助動詞・近未来の表現
- 第3回 復習
- 第4回 完了表現
- 第5回 復習
- 第6回 経験表現
- 第7回 復習
- 第8回 強調表現・進行形
- 第9回 復習
- 第10回 比較の表現
- 第11回 復習
- 第12回 程度補語・時量補語
- 第13回 復習
- 第14回 方向補語
- 第15回 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%)

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談について人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：話したくなる中国語 周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓越 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**基礎中国語 A II Basic Chinese A II**

電気工学科 1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになってい  
る。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされて  
きており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない  
国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語では  
はあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっている  
ため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しか  
しこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国との言語に比べれば  
はるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中  
国語の初步的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう  
日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中  
国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深  
める。

**4. 授業計画**

- 第1回 復習
- 第2回 助動詞・近未来の表現
- 第3回 復習
- 第4回 完了表現
- 第5回 復習
- 第6回 経験表現
- 第7回 復習
- 第8回 強調表現・進行形
- 第9回 復習
- 第10回 比較の表現
- 第11回 復習
- 第12回 程度補語・時量補語
- 第13回 復習
- 第14回 方向補語
- 第15回 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%)  
60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談につ  
いては人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：話したくなる中国語 周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓  
越 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**基礎中国語 A II Basic Chinese A II**

物質工学科 1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 板谷 秀子

**1. 概要**

中国語の習得方法には2通りある。

視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き  
取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における  
漢字の読み方と中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異  
なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初  
歩なのだ。

**2. キーワード**

外国语としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

**3. 到達目標**

普通話の正確な発音  
初級会話のヒアリング力

**4. 授業計画**

- 1. 中国映画上映
- 2. テキスト第六課 結果補語
- 3. テキスト第六課 可能ですか？
- 4. テキスト第七課 数量表現
- 5. テキスト第七課 いくらですか？
- 6. テキスト第八課 時間表現
- 7. テキスト第九課 方位名詞
- 8. テキスト第十課 食事の会話
- 9. テキスト第十課 メニューの読み方
- 10. テキスト第十一課 京劇
- 11. テキスト第十一課 様態補語
- 12. テキスト第十二課 オリンピック
- 13. テキスト第十二課 強調表現
- 14. 総合復習
- 15. 定期試験

**5. 評価方法**

基準  
定期試験90% 平常点10%  
60点以上を合格とする

**6. 履修上の注意事項**

出席重視  
2/3以上の出席必須

**7. 教科書・参考書**

教科書：北京コレクション入門編（朝日出版）

**8. オフィスアワー等**

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

**基礎中国語 B Basic Chinese B**

機械知能・建設社会 1年次 後学期 選択必修 1単位  
担当教員 岡村 真寿美

**1. 概要**

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各入しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいっても、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、前学期に習得した発音、基礎的な文法を復習し、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

**2. キーワード**

中国 外国語 異文化

**3. 到達目標**

- ①発音を正確にマスターする
- ②基礎的な文法をマスターする
- ③使えるようにする
- ④中国に対する知識を増やす

**4. 授業計画**

1. 受講のためのガイダンス
2. 自己紹介（第1課・第2課）
3. 「是」を使った述語文（第1課・第2課）
4. 形容詞述語文（第3課）
5. 日付・曜日（第4課）
6. 時間（第5課）
7. 存在の表現（第6課）
8. 「～したい」（第7課）
9. お金の言い方（第7課）
10. 「～できる」（第8課）
11. 「～するのがすきだ」（第8課）
12. 経験（第9課）
13. 料理（第9課・第10課）
14. 復習
15. 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験70%、平常点30%。合計60点以上を合格とする。  
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

**6. 履修上の注意点**

全講義回数の2／3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

**7. 教科書・参考書**

教科書：『新版』中国語10課（白水社、方如偉他著）

**8. オフィスアワー等**

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

**基礎中国語 B Basic Chinese B**

電気工学科 1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 板谷 秀子

**1. 概要**

中国語初級の仕上げのステップを履修する。中国語検定試験三級合格を目指とする。応用会話を反復練習し、ヒアリング力を高めたい。

**2. キーワード**

継続は力なり

**3. 到達目標**

日常会話のヒアリング力を高める

**4. 授業計画**

1. 初級の発音の基礎・文法力のウォーミング・アップ
2. 数の表現 ポイント学習 テキスト第一課・第二課
3. 疑問文 ポイント学習 テキスト第二課 第三課
4. 動詞文 ポイント学習 テキスト第五課
5. 形容詞文・比較文のポイント学習 テキスト第六課
6. 助動詞 ポイント学習 テキスト第七課
7. 街角の会話：道順を尋ねる テキスト第八課
8. 応用会話：趣味 テキスト第九課
9. 応用会話：旅行 テキスト第十課
10. 応用会話：ホテル予約 テキスト第11課
11. 応用会話：レストラン テキスト第12課
12. 応用会話：把構文 テキスト第13課
13. 応用会話：観劇 テキスト第14課
14. 総復習
15. 定期考查

**5. 評価方法**

基準

定期試験90% 平常点10%

60点以上を合格とする

履修上の注意事項

出席重視

2/3以上の出席必須

**7. 教科書・参考書**

教科書：『念念説説』（光生館）

**基礎中国語 B Basic Chinese B**

物質工学科 1年次 前学期 選択必修 1単位  
担当教員 板谷 秀子

**1. 概要**

中国語初級の仕上げのステップを履修する。中国語検定試験三級合格を目指す。応用会話を反復練習し、ヒアリング力を高めたい。

**2. キーワード**

継続は力なり

**3. 到達目標**

日常会話のヒアリング力を高める

**4. 授業計画**

1. 初級の発音の基礎・文法力のウォーミング・アップ
2. 数の表現 ポイント学習 テキスト第一課・第二課
3. 疑問文 ポイント学習 テキスト第二課 第三課
4. 動詞文 ポイント学習 テキスト第五課
5. 形容詞文・比較文のポイント学習 テキスト第六課
6. 助動詞 ポイント学習 テキスト第七課
7. 街角の会話：道順を尋ねる テキスト第八課
8. 応用会話：趣味 テキスト第九課
9. 応用会話：旅行 テキスト第十課
10. 応用会話：ホテル予約 テキスト第11課
11. 応用会話：レストラン テキスト第12課
12. 応用会話：把構文 テキスト第13課
13. 応用会話：観劇 テキスト第14課
14. 総復習
15. 定期考査

**5. 評価方法**

基準

定期試験90% 平常点10%  
60点以上を合格とする

**6. 履修上の注意事項**

出席重視

2/3以上の出席必須

**7. 教科書・参考書**

教科書：『念念説説』（光生館）

**選択中国語 A Elective Chinese A**

全学科 2年次 前学期 選択 1単位  
担当教員 一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初步的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中國語の会話能力を養っていく。あわせて中国理解を深める。

**4. 授業計画**

- |      |      |
|------|------|
| 第1回  | 第1課  |
| 第2回  | 第2課  |
| 第3回  | 第3課  |
| 第4回  | 第4課  |
| 第5回  | 第5課  |
| 第6回  | 第6課  |
| 第7回  | 第7課  |
| 第8回  | 第8課  |
| 第9回  | 第9課  |
| 第10回 | 第10課 |
| 第11回 | 第11課 |
| 第12回 | 第12課 |
| 第13回 | 第13課 |
| 第14回 | 第14課 |
| 第15回 | 試験   |

**5. 評価方法・基準**

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%)  
60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

履修者が各クラスにつき50人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前学期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を揭示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：すぐに使える中国語－忘れない日々－ 楊光俊・張平・王聰・李貞愛・趙方任・渡部修士 郁文堂  
参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**選択中国語B I      Elective Chinese B I**

全学科 2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初步的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

**4. 授業計画**

第1回 中国語概説

第2回 発音（1）単母音、声調

第3回 発音（2）重母音、鼻母音

第4回 発音（3）子音

第5回 発音（4）声調変化、発音のまとめ

第6回 名詞述語文

第7回 復習

第8回 形容詞述語文

第9回 復習

第10回 動詞述語文

第11回 復習

第12回 所有表現、物の数え方

第13回 復習

第14回 存在分・連動文

第15回 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

履修者が各クラスにつき50人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前学期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：話したくなる中国語 周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓越 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

**選択中国語B II      Elective Chinese B II**

全学科 2年次 後学期 選択 1単位

担当教員 一木 達彦

**1. 概要**

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じができるだろう。本講義を通じて中国語の初步的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

**2. キーワード**

中国、国際性、異文化理解、言語

**3. 到達目標**

中国語の発音とアクセントを正確に修得し、入門期に必要な中国語の基礎文法事項を中心に学んでいく。あわせて中国理解を深める。

**4. 授業計画**

第1回 復習

第2回 助動詞・近未来の表現

第3回 復習

第4回 完了表現

第5回 復習

第6回 経験表現

第7回 復習

第8回 強調表現・進行形

第9回 復習

第10回 比較の表現

第11回 復習

第12回 程度補語・時量補語

第13回 復習

第14回 方向補語

第15回 試験

**5. 評価方法・基準**

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

**6. 履修上の注意事項**

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

**7. 教科書・参考書**

教科書：話したくなる中国語 周飛帆・田口善久・橋本雄一・韓越 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社

**8. オフィスアワー等**

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

選択ロシア語 A I Russian A I

全学 第2年次 前学期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
- 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
- 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
- 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
- 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問い合わせ
- 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
- 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名  
(名詞の単数と複数)
- 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
- 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語  
(動詞の人称変化形)
- 第10回 テーマ「第2課②」趣味 (名詞の対格)
- 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
- 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

前学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書 戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

選択ロシア語 A II Russian A II

全学 第2年次 後学期 選択 1単位

担当教員 Shestakova Natalya

1. 講義概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

この講義の目的は全ての四つの基本的な言語熟練（聞くこと、読むこと、話すこと及び書くこと）の調和的な発展です。文法事項は用語練習で習得されています。

4. 授業計画

前学期末試験

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介（名詞の前置格）
- 第2回 テーマ「第3課②」職業（形容詞）
- 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
- 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
- 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活（動詞の過去）
- 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
- 第6回 テーマ「第4課③」訪問（動詞の体）
- 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
- 第8回 テーマ「第5課①」余暇（動詞の未来形）
- 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
- 第10回 テーマ「第5課③」訪問（動詞の命令形）
- 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

後学期末試験

5. 評価方法・基準：

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 受講上の注意

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書 戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー等

**選択韓国（朝鮮）語 A I      Elective Korean A I**

全学 第2年次 前期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

**1. 講義概要**

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。この言語の文法は日本語とよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初步の段階では他の言語と比べても容易であるとはいひ難いです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきますが、ほぼ毎回宿題や小テストを実施します。この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

**2. キーワード**

ハンガル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

**3. 到達目標**

①韓国語の文字と発音の習得、②基礎的な文法の学習、③韓国文化の理解

**4. 授業計画**

- ・オリエンテーション
- ・母音 1, 2
- ・子音 1, 2
- ・終声子音（バッヂム） 1, 2
- ・発音の仕組み（法則） 1, 2
- ・やさしい会話 1, 2, 3
- ・基本文型 1, 2

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する紹介もしています。

**5. 評価方法・基準：**

①定期試験、②出席、③小テストによる総合評価

**6. 受講上の注意**

「楽しく学ぶ」ことがモットの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題（予習及び復習、特に復習）などが苦にならない、ヤル気ある学生の受講を望みます。

**7. 教科書・参考書**

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」ハナ出版社

(教科書に関しては、第一回目の授業で紹介します。)

**8. オフィスアワー等****選択韓国（朝鮮）語 A II      Elective Korean A II**

全学 第2年次 後期 選択 1単位

担当教員 桂 林春

**1. 講義概要**

基本的には前期の「選択韓国（朝鮮）語 A I」の続きとして進めていきます。

授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。

ハンガルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

**2. キーワード**

ハンガル、韓国語の発音、韓国の文化

**3. 到達目標**

①基礎的な文型及び文法の学習、②やさしい日常会話の習得、③韓国文化への理解

**4. 授業計画**

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1, 2, 3
- ・数字 1, 2
- ・やさしい会話 1, 2
- ・助詞 1, 2, 3
- ・楽しい会話 1, 2
- ・過去形
- ・尊敬系
- ・連体形

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

**5. 評価方法・基準：**

①定期試験、②出席、③宿題と小テストによる総合評価。

**6. 受講上の注意**

選択韓国（朝鮮）語 A I 参照。

ほぼ毎回宿題や小テストがあります。

**7. 教科書・参考書**

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」ハナ出版社

**8. オフィスアワー等**